景観形成行動計画

日本風景街道「新因幡ライン」

（若桜町・八頭町エリア）

令和３年６月

新因幡ライン景観形成行動計画（若桜町・八頭町エリア）策定委員会

目　次

１　はじめに …… 1
（１）行動計画策定の目的
（２）行動計画の位置づけ
（３）行動計画の対象地域
２　新因幡ライン沿線の景観形成の方針 …… 2
（１）新因幡ライン沿線の景観特性 …… 2
（２）近年の取組み …… 4
（３）課題 …… 5
（４）今後の取組みの考え方 …… 5
１）景観形成の方針 …… 5
２）景観配慮が必要な要素の抽出 …… 6
３）景観資源、ビューポイント・滞留拠点の選定 …… 9
４）重点的に景観形成に取り組む区間 …… 12

３　行動計画 …… 13
（１）景観配慮が必要な要素の整理 …… 13
１）景観規制の現状と課題 …… 13
２）景観診断で抽出された景観配慮が必要な要素の整備方針 …… 14
ア）公共広告物 …… 14
イ）民間広告物及び民間建築物・工作物 …… 15
ウ）道路附属物等 …… 17
エ）沿道の除草、植栽の管理等 …… 19
オ）バス待合所 …… 20
カ）電線・電柱等 …… 21
キ）花御所柿畑の防風ネット …… 22
ク）遊休・荒廃農地等 …… 22
３）民間活動への支援 …… 23
（２）景観資源の保全・活用 …… 24
（３）ビューポイント・滞留拠点の整備 …… 28
（４）推進体制等 …… 33
（５）行動スケジュール …… 33
（６）令和３・４年度の取組方針 …… 34

参考資料１　新因幡ライン景観形成行動計画策定委員会による検討経過 …… 37
参考資料２　景観診断ワークショップにおける地点ごとの評価 …… 39
参考資料３　ワークショップ「景観資源等の活用を考える」における意見・アイデア等 …… 43
参考資料４　ワークショップ「景観資源等の活用を考える」で使用した箇所別シート …… 49

１　はじめに

（１）行動計画策定の目的

日本風景街道に登録されている新因幡ライン沿線は、日本の原風景と呼ぶにふさわしい四季折々の自然や農山村の景観、若桜鉄道等の歴史的価値のある景観を多く有しており、この美しい景観を保全し、さらに磨き上げていくことが、地域に暮らす人々の郷土愛を育み、地域の観光振興へとつながっていく。本行動計画は、若桜町、八頭町及び県の関係機関（以下「関係行政機関」という。）が、そのために必要な各々の行動を計画として定め、連携して実行し、さらには民間の取組みを誘導していくことを目的とする。

【日本風景街道】

郷土愛を育み、多様な主体による協働のもと景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創生する運動を促すことにより地域活性化、観光振興に寄与するもので、国土交通省により、全国で144ルート（鳥取県内は３ルート）が登録されている。新因幡ラインは、平成28年３月に登録を受けた。

（２）行動計画の位置づけ

本行動計画は、新因幡ライン沿線（若桜町・八頭町エリアに限る。以下において同じ。）の景観形成を進めていくため関係行政機関が取るべき行動を任意に定めるものである。（景観法、鳥取県景観形成条例、鳥取県景観計画等の景観に関する法令等に基づくものではなく、住民等の行為を規制や制限する性質のものではない。）

また、関係行政機関は、本行動計画に基づき連携して新因幡ライン沿線の景観形成に努めるものとし、進捗状況等に応じて内容・スケジュール等必要な見直しを行いながら実行していくものとする。

なお、本行動計画は、関係行政機関で構成する新因幡ライン景観形成行動計画（若桜町・八頭町エリア）策定委員会（以下「行動計画策定委員会」という。）において、国土交通省鳥取河川国道事務所、若桜鉄道（株）、R29活性化委員会（※）にオブザーバーとして参加いただき、意見をいただきながら策定したものである。また、策定にあたって一般社団法人まちの魅力づくり研究室理事堀繁氏（東京大学名誉教授）及び鳥取県景観アドバイザー宮川淳子氏（鳥取県屋外広告物審議会長）からそれぞれ景観まちづくり及び色彩に関する専門的なアドバイスをいただいた。

※日本風景街道登録の要件である「民間組織の活動」を行うR29新因幡ライン協議会の構成団体。八頭町安井宿を拠点に沿線の緑化・美化活動に取り組んでいる。

（３）行動計画の対象地域

本行動計画は新因幡ライン沿線のみならず、目的の達成のため一体的に取り組むことが効果的と考えられる景観資源等が存する地域を含む新因幡ライン沿線周辺地域を対象とする。

２　新因幡ライン沿線の景観形成の方針

（１）新因幡ライン沿線の景観特性

新因幡ライン沿線の景観形成の方針を考える上で、周辺地域の景観特性を「自然・地形」「歴史・文化」「生活・交通」「産業」の４つの視点から整理した。

① 自然・地形

因幡地方は、南に三室山（1,358m）、那岐山（1,255m）等を中心に標高1,000m級の峰々が連なり、東には扇ノ山（1,315m）、氷ノ山（1,510m）の高峰が屏風のようにそびえ、これらからなる「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」の四季折々の美しい渓谷景観が、この地域の特色として挙げられる。

これらの山々に端を発する千代川水系の河川が、永い年月をかけて、地形を馬蹄型に浸食し、下流に若桜町、八頭町の盆地、郡家平野や鳥取平野を形成している。

また、これらの山々が冬季の季節風の障壁となり、豪雪、低温多雨の気候をもたらしている。

千代川水系最大の支流である八東川は、戸倉峠西側に端を発し、氷ノ山南西麓を西流し、若桜町、八頭町の中心部を経て千代川に注ぐ。河川浸食による峡谷地形や河岸段丘を形成し、段丘面では耕作地が広がる。下流部ほど、清流、水田、背後の山々が一体となり、里山の風景を眺望することができる。八頭町徳丸では、溶岩が弧を描くように岩となって形成された玄武岩の自然滝が「徳丸ドンド」と呼ばれ親しまれている。

国道29号は、これらの風景の中を、戸倉峠から八頭町西御門まで、八東川で形成された若桜谷の底部を概ね河川に沿って走る。

また、氷ノ山は、中国地方では大山に次ぐ高峰で、ゆるやかな尾根や深く急な谷など変化に富んだ地形による景観を見せるとともに、ブナの自然林やキャラボク群落、多様な高山性植物が見られ、天然記念物のイヌワシやヤマネをはじめ、さまざまな動物が生息している。春の新緑、秋の紅葉、冬の樹氷と景観に優れ、四季を通じて多くの人々が、国道482号を通って訪れる。

② 歴史・文化

新因幡ライン沿線では、宿場町として栄えた若桜宿や安井宿の伝統的町並みや、駅舎や橋梁等が昭和５年の開業当時の姿をとどめながら今なお現役で地域の足として運行し続けている若桜鉄道など、多くの有形・無形の遺産や文化財が点在し、歴史的・文化的景観として地域に親しまれている。

若桜町若桜宿、若桜鬼ヶ城（国指定史跡）

若桜宿は、中世期に鶴尾山（標高452m）に鬼ヶ城が築かれて以来、城下町・宿場町として整備され、交通の要路・物資の集散地として発展してきた。播磨・但馬国へと通じる街道の結節点に位置しており、因幡地方にとって重要な拠点であった。明治期の防火対策に基づき成立した土蔵群が立ち並ぶ「蔵通り」や当時のアーケードとして活用された庇の残る「仮屋通り」等がある。

八頭町安井宿

宿内にはかつての因幡街道沿いに赤瓦の家並みが続き、宿場町の風情を残している。宿の中ほどには、かつての郵便局や法務局であった近代建築を見ることができる。付近の愛宕（あたご）神社の石段下には「右 いせ道／左 やま道」と印された石道標が残り、街道の歴史を偲ぶことができる。また、伊蘇乃佐只（いそのさき）神社の麒麟獅子舞（町指定無形民俗文化財）は春の風物詩となっている。

若桜鉄道

八頭町郡家駅から若桜町若桜駅までの19.2ｋｍを結ぶ第３セクター鉄道である若桜鉄道は、昭和５年12月に旧国鉄若桜線として全線開通してから90年の歴史があり、昭和の趣が色濃く残る駅舎や橋梁などの鉄道施設が、平成20年に国の有形文化財に登録され、貴重な地域の歴史的景観となっている。また、工業デザイナー水戸岡鋭治氏が手掛けた観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」が走り、木造のレトロな駅舎やどこか懐かしい昭和の原風景が残る沿線の旅を演出し、車窓からは、春は桜、夏はのどかな田園風景、秋はオレンジ色に染まる花御所柿畑、冬は雪景色といった沿線の四季折々に異なった眺望の広がりが楽しめる。

新因幡ライン沿線のその他の文化財等

区分	名称	所在地
国指定重要文化財	不動院岩屋堂	若桜町岩屋堂
国登録有形文化財	若桜橋	若桜町若桜・浅井
町指定無形民俗文化財	若桜神社大祭	若桜町若桜
町指定有形文化財	伊勢道の道標	若桜町若桜
国指定重要文化財	矢部家住宅	八頭町用呂
県指定天然記念物	西御門の大イチョウ	八頭町西御門
町指定文化財（史跡）	安藤井出（農業用水路）	八頭町安井宿～郡家

③ 生活・交通

新因幡ラインの若桜町及び八頭町の区間は、県都鳥取市と関西圏や山陽圏を繋ぐ位置にあり住民生活は、購買や通勤・通学、製造業・農林業等における物流、観光業等、様々な場面で両方面との関わりが深い。また、県外観光客の経由地でもあり、移動中や立ち寄り先で観光客が目にする景観は、リピーターの獲得、ＳＮＳによる拡散やさらなる誘客を左右する重要な要素であるといえる。

播磨方面とは、新因幡ライン（国道29号）により戸倉峠を越え往来されるが、平成25年３月の鳥取自動車道全線開通によりその交通量は激減した。本行動計画による取組みにより、観光客の増加に繋げていくことが求められている。

但馬方面は、国道482号の兵庫県香美町小代区～若桜町つく米間が平成16年台風23号による土砂崩れにより通行不能区間となっていたが、令和元年５月、約15年ぶりに開通し往来可能になっている。これにより若桜町と香美町が結ばれ、豊かな観光資源を持つ両町の連携強化により観光の発展が期待されている。

また、若桜鉄道が郡家駅（八頭町郡家）でＪＲ因美線と連結しており、若桜～鳥取間、若桜～智頭～山陽・関西圏を結んでいる。若桜鉄道は住民の通勤・通学等の足として利用されているとともに、観光振興にも活用されており、その車窓からの景観や若桜鉄道が景観そのものとして捉えられていることについては、前述のとおりである。

④ 産業

新因幡ライン沿線の景観を特徴付ける主要な産業として、農林業と観光業が挙げられる。

支流を含む八東川流域では、河川に沿って帯状に耕作が行われ、農山村景観を形成している。なかでも標高800mの山地を切り開かれた形状が日本の棚田百選に選ばれた若桜町の「つく米の棚田」（標高の高さは全国の棚田の中でもトップクラス）や八頭町の「花御所柿」をはじめとする柿、梨、りんごなどの果樹畑は美しく、新因幡ラインの景観の特色の一つとなっている。八頭町では、平成29年９月に「はっとうフルーツ観光園」をオープンするなど、これらフルーツを活かした観光振興にも取り組んでいる。しかし、一方で農林業従事者の減少は顕著であり、これに伴う耕作放棄地の発生等による景観の悪化も懸念されているところである。

若桜町では、古くから林業が行われ「若桜杉」の生産で栄えたが、外材の輸入に押され林業は斜陽化し、産業の多角化の必要性から、昭和30年代後半から氷ノ山の開発が始まった。わかさ氷ノ山スキー場の入込客数は年間３万人を超えていたが、近年、雪不足や新型コロナウィルス感染症の影響により入込客数が大きく落ち込んだ。雪に覆われたゲレンデや山々の景観の素晴らしさはいうまでもなく、オフシーズンのゲレンデも、草花や山の緑が美しい。「氷ノ山自然ふれあいの里」は、さらなる誘客のポテンシャルを秘めており、年間を通じた観光振興が持続可能な発展への課題となっている。

（２）近年の取組み

１）日本風景街道への登録

国道29号沿線地域において、平成26年より国土交通省の日本風景街道への登録を目指す取組みが始まった。平成28年２月には、地域資源を活用し、県境を越えた景観の保全、交流人口の増加や地域の活性化を図ることを目的とし、民間団体で構成する「国道29号沿線広域協働活動実行委員会」（現：R29新因幡ライン協議会）が設立され、同委員会により日本風景街道への登録申請がなされた。そして、平成28年３月10日、兵庫県宍粟市（山崎IC）から鳥取市（鳥取城跡）までの国道29号（約90㎞）及び若桜町・八頭町内の国道482号を中心とした地域が「新因幡ライン～ふるさとに出会う幸福（29）ロード～」として、全国138番目の日本風景街道に登録された。

日本風景街道登録後も、R29新因幡ライン協議会と、沿線自治体（鳥取県、兵庫県、鳥取市、八頭町、若桜町、宍粟市）及び各道路管理者によるパートナーシップを構成し、イベントの開催、フットパスの推進、清掃活動、ガードレールの塗替えや新因幡ラインの周知など様々な取組みを行っている。

２）若桜鉄道のレトロ化

若桜鉄道、若桜町及び八頭町において、減少を続ける乗客数の下げ止まりと安定した収入確保を目指し、町外からの利用者を呼び込むための取組みとして、平成29年度より４両ある車両のうち、昭和62年から運行を続けてきた３両の車両の観光列車化が始まり、工業デザイナーの水戸岡鋭治氏が手掛けた木材をふんだんに取り入れたレトロ調の観光列車「昭和号」が平成30年３月に運行が開始された。一方で、旧国鉄若桜線が開業した昭和５年当時の姿を現在もとどめ、平成20年には国の登録有形文化財に登録された昭和レトロの趣が残る駅舎においては、ポスターや掲示板、駅舎出入口前の自動販売機等が景観を損ねていた。そこで、新たに生まれ変わった車両と駅舎とのトータルデザインによる観光資源として磨き上げる取組みとして、「駅舎再生プロジェクト」を策定し、不要なものの撤去や色彩の統一、内外壁の老朽箇所の修繕を行うなど、駅舎のレトロ化に取り組んでいる。

３）若桜宿の重要伝統的建造物群保存地区選定

若桜宿には、本通り・蔵通り沿いを中心に明治から昭和 30 年代にかけての伝統的な建造物とその周辺環境が良好な状態で残されている。しかし、少子高齢化や過疎化に伴い空き家や空き地が増加しており、若桜らしい町並みが失われつつあった。

国の「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」の選定に取り組むことが、若桜らしい町並みを残しながら住みやすい住環境と安心・安全で賑わいのあるまちづくりにつながると考え、平成 27 年度から２年をかけて伝統的建造物群保存対策調査を実施し、地区住民への説明会などを通じて合意形成を図りながら、国選定に向けた活動に取り組んできた。こうした取組みの成果が実を結び、令和３年５月 21 日に国の文化審議会は若桜町若桜伝統的建造物群保存地区を国重要伝統的建造物群保存地区に選定するよう文部科学省に答申した。

（３）課題

新因幡ライン沿線には、景観上好ましくない屋外広告物や景観を阻害している建築物・工作物等が、行政が設置したものも含め数多く存在しており、個々の景観資源をつなぐルート全体の印象として良好な景観が形成されているとはいえず、観光振興などに活かすことができていない状況にある。

また、一部の住民・団体等が緑化・美化活動等に取り組まれているが、モチベーションの維持や、活動財源、参加者の確保に課題があり、活動の継続が難しい状況にある。

（４）今後の取組みの考え方

１）景観形成の方針

新因幡ラインの景観特性を活かし、さらに磨き上げていくためには、これらの美しい景観資源への配慮が必要な要素を「整理」し、次世代に残していくため「保全」し、さらには、風景を楽しむ場所・人が集う空間を整備することにより、新たな景観とにぎわいを「創出」していくことが必要である。これら３つの観点から行動計画を定め、取り組んでいくこととする。

２）景観配慮が必要な要素の抽出

人が見たいものを遮り又はそのもの自体の色彩や経年劣化等により、景観を損なっている屋外広告物や建築物・工作物等を客観的に抽出するため、新因幡ライン沿線の景観診断を、堀繁氏の御指導のもと関係民間団体等にも参加いただき、ワークショップ形式で実施した。これにより抽出された物件等に対し、どのような対応が可能か行動計画策定委員会で検討を行った。

① 景観診断の実施

日　時：令和２年９月 26 日（土）
　　① 講演「景観形成により地域の魅力づくり」午後１時から２時 30 分まで
　　② 景観診断ワークショップ　　午後３時から５時まで
場　所：八頭町中央公民館（八頭町宮谷）
講　師：堀　繁氏（(一社）まちの魅力づくり研究室理事　東京大学名誉教授）
参加者：若桜町、八頭町、県及び国土交通省職員、鳥取市職員、県景観アドバイザー
　　新因幡ライン関係まちづくり団体、観光関係者、一般参加者　計 20 名
　　（講演は、このほか住民、景観まちづくり団体等　計 60 名）

参加者は、景観診断（景観の評価）を行うワークショップに先立ち、景観まちづくりをテーマとした堀繁氏の講演を聴き、「景観とはなにか」「人は何を評価するのか」といった景観の評価をする上で、重要な視点を学んだ。

続いて、参加者は、５グループに分かれ、新因幡ライン沿線の代表的な１２地点について、景観診断シートを用いて各グループで議論・評価を行った。地点ごとに各グループの代表者が発表を行い、評価の観点を共有した。

（景観診断シート）

② 景観診断の結果

各グループの評価の一部を以下に掲載する。各地点共通して、屋外広告物や電線・電柱等により視界が遮られていることや、屋外広告物、建築物や道路附属物等の色彩が周囲に調和していないことなど景観への配慮が必要な要素が挙げられた。（全地点の評価を参考資料として末尾に添付する。）

新因幡ライン景観診断ワークショップ（R2.9.26）

	発表者	評価コメント
地点①		
	A（小山）	・緑のある所では、ブラウンのガードパイプがなじんでいる。 ・イオン、レッドパロンの看板は一番気になる。折り合いをつけながら、どう変えられるか。 ・青い屋根が目立つ。 ・耕作放棄地が目立つ。
	B（堂崎）	・ここにこの広告がいるのか。 ・青い屋根が目立つ。 ・道路脇の草が多い。草刈りをした方がいい。 ・ミラーは必要か。 ・ガードレールの色がおしゃれな方がいい。八頭ブラウンやうぐいす色。 ・照明柱の色を変えた方がいい。
	C（伊藤）	・看板が派手。 ・青い屋根は塗り替えた方がいい。 ・草刈りをした方がいい。
地点②		
	A（宮川）	・赤・黄・青の看板。周囲の山や空の色にあったものを色彩的に分析し、明度や彩度を低く調和のとれたまとまりのある看板を目指してほしい。
	B（福本）	・電線がごちゃごちゃしており、地中化を考えた方がいい。 ・鉄塔の位置を道路から離すか、色を調和したものにした方がいい。 ・ガードレール、ガードパイプを風景に調和した色にした方がいい。
	C（山邊）	・電線が多すぎる。 ・看板、情報量が多すぎる。 ・のぼり旗は必要なのか。
	発表者以外	・道路案内標識と看板の情報がかぶっている。 ・看板はレトロ化してはどうか。
地点③		
	A（白岩）	・ガードパイプは、もう少し薄い色の方がいいのではないか。 ・この場所にこの看板の効果が疑問。
	B（梅実）	・草で看板が見えていない。草刈りをした方がいい。 ・そもそもこの看板がいるのか。 ・山や川が見えた方がいい。
	C（佐野）	・空と緑の対比がいいので、電線は埋めた方がいい。 ・ガードパイプの茶色が濃いが、八頭ブラウンは活かさないといけないか。 ・若桜鉄道や川が見えるように草刈りをした方がいい。
	発表者以外	・看板の字が多すぎて読めない。
地点④		
	A（高市）	・看板が派手、山の稜線を阻害している。 ・ガードレールは景観になじむ色にした方がいい。
	B（春名）	・看板が古く、上の女性はいらない（用呂）。八頭町らしい派手な看板（安井宿）。 ・若桜鉄道が見えるように草刈りをした方がいい。 ・ガードレールを工夫して川が見えるようにすると日本の原風景らしくなる。 ・電柱、ポール、街灯がめざわり。
	C（盛本）	・看板はいらない。 ・雑草を刈った方がいい。 ・川の景色がいいところ。ガードレールの工夫がほしい。

③ 行動計画策定委員会における検討

景観診断により抽出された景観配慮が必要な要素を整理し、行動計画策定委員会（令和２年 11 月 20 日開催）において、対応方針の検討を行った。

沿線全体に共通なものとして整理した景観配慮が必要な要素と対応方針

要　素	対応方針
公共広告物	各管理者で継続設置の必要性を検討し、不要と判断したものは撤去する。 新設、改修等については、鳥取県景観計画に定める景観形成重点区域の行為基準を適用すること検討する。
民間広告物 民間建築物	公共広告物と同様の基準に合致するよう誘導する。
道路附属物 (ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ等)	ガードレールの色は更新時等にダークブラウンに統一していく。また、住民・団体等のワークショップによるガードレールの塗装を推進する。
除草 植栽管理	予算上の制約や、費用対効果の観点から重点的に実施する区間を検討する。また、住民・団体等による除草、植栽管理を推進する。
バス待合所	町又は道路管理者が設置のものは、地域住民の合意を得て撤去又は周囲と調和するよう改修・建替を検討する。民間設置のものも周囲と調和するよう改修等を誘導する。
電線・電柱 鉄塔	滞留拠点、ビューポイント等、重点的に景観整備に取り組む部分を選定した上で、中国電力等に無電柱化について要望していく。
柿畑のネット	農家及び農協に対し、黒又は茶系色のネットへ交換等を行うよう誘導する。
耕作放棄地	所有者、住民・団体等による景観作物の栽培や耕作の再開等を推進する。

３）景観資源、ビューポイント・滞留拠点の選定

行動計画策定委員会において、景観資源等をリストアップし（下表）、その中でも優先して保全・活用や整備を検討していくものとして本行動計画に掲げるものを選定した。

景観資源については、歴史的建築物や町並みの保全、農山村田園風景の保全及び若桜鉄道施設の活用等の観点から、また、ビューポイント・滞留拠点については、景観資源を活用した観光振興等の観点から選定を行った。（下表太枠）

また、本行動計画に掲げる景観資源の保全・活用策やビューポイント・滞留拠点の整備の方針については、住民や関係民間団体等が参加するワークショップで得られた様々な意見、アイデア等を踏まえて検討を行った。

＜景観資源＞

No	名　称	所在地、地域・地区	概　要
1	若桜鉄道　各駅舎・施設	若桜町若桜～八頭町	登録有形文化財、若桜駅、隼駅、安部駅等
2	若桜鬼ヶ城跡	若桜町三倉	国指定史跡
3	若桜橋	若桜町浅井	S9 年竣工、土木学会選奨土木遺産、登録有形文化財
4	若桜宿（仮屋通り・蔵通り）	若桜町若桜	若桜宿の町並み
5	千石岩（せんごくいわ）	若桜町赤松	
6	棚田	若桜町つく米	日本の棚田 100 選
7	氷ノ山	若桜町つく米	
8	遠見山（とおけんざん）	八頭町八東地域	八東地域の自然風景（田園風景と遠見山）
9	富枝砕石場跡地	八頭町富枝	
10	徳丸ドンド	八頭町徳丸	八東川の河川内にある弧を描くような滝形状の地形
11	安井宿	八頭町安井宿	赤瓦屋根の町並み
12	花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
13	おおイチョウ	八頭町西御門	11 月中旬から下旬が見頃
14	日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

＜ビューポイント・滞留拠点＞

No	区分		名　称 （ある場合）	所在地 地域・地区等	視対象 ビューポイントの場合
	ビューポイント	滞留拠点			
1	○	○	若桜鉄道　各駅舎・施設等	若桜町～八頭町	若桜鉄道
2	○	○	道の駅若桜「桜ん坊」	若桜町若桜	鬼ヶ城跡、若桜駅
3	○	○	氷ノ山自然ふれあいの里	若桜町つく米	棚田、氷ノ山などの山なみ
4	○	○	道の駅はっとう	八頭町徳丸	向かいの田園風景、遠見山
5	○	○	徳丸親水公園	八頭町徳丸	自然と若鉄車両の風景 徳丸ドンド、若桜鉄道第二八東川橋梁
6	○	○	物産館みかど	八頭町大門	近隣の柿畑
7	○		花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
8	○		日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

① ワークショップの実施

日　時：令和３年４月 30 日（金）
　　① 講演「地域活性化のための滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用法」
　　午後１時から２時 20 分まで
　　② ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」
　　午後２時 30 分から４時 30 分まで
場　所：隼 Lab.（ラボ）体育館（八頭町見槻中）
講　師：堀　繁氏（オンライン）
参加者：若桜町、八頭町、県及び国土交通省職員、県景観アドバイザー
　　観光関係者、柿農家、地域おこし協力隊等　計 24 名（講演　計 39 名）

参加者は、まず堀繁氏の講演を聴き、地域の活性化に効果的な整備手法や景観資源の活用例など、ワークショップで景観資源の保全・活用策等を考えるために必要な観点を学んだ。その後、６つのグループに分かれ、箇所別シートを用いて景観資源の保全・活用策やビューポイント・滞留拠点の整備のアイデア出しを行った。景観資源５箇所、ビューポイント・滞留拠点５箇所の計 10 箇所について、それぞれ活発な議論が行われ、様々な意見やアイデアを得ることができた。

② ワークショップにおける意見・アイデア等

ワークショップで得られた意見・アイデアの一部を次頁に掲載する。（使用した箇所別シート及び全箇所の意見・アイデアを参考資料として末尾に添付する。）

（箇所別シート）

③ 箇所ごとの具体策の検討

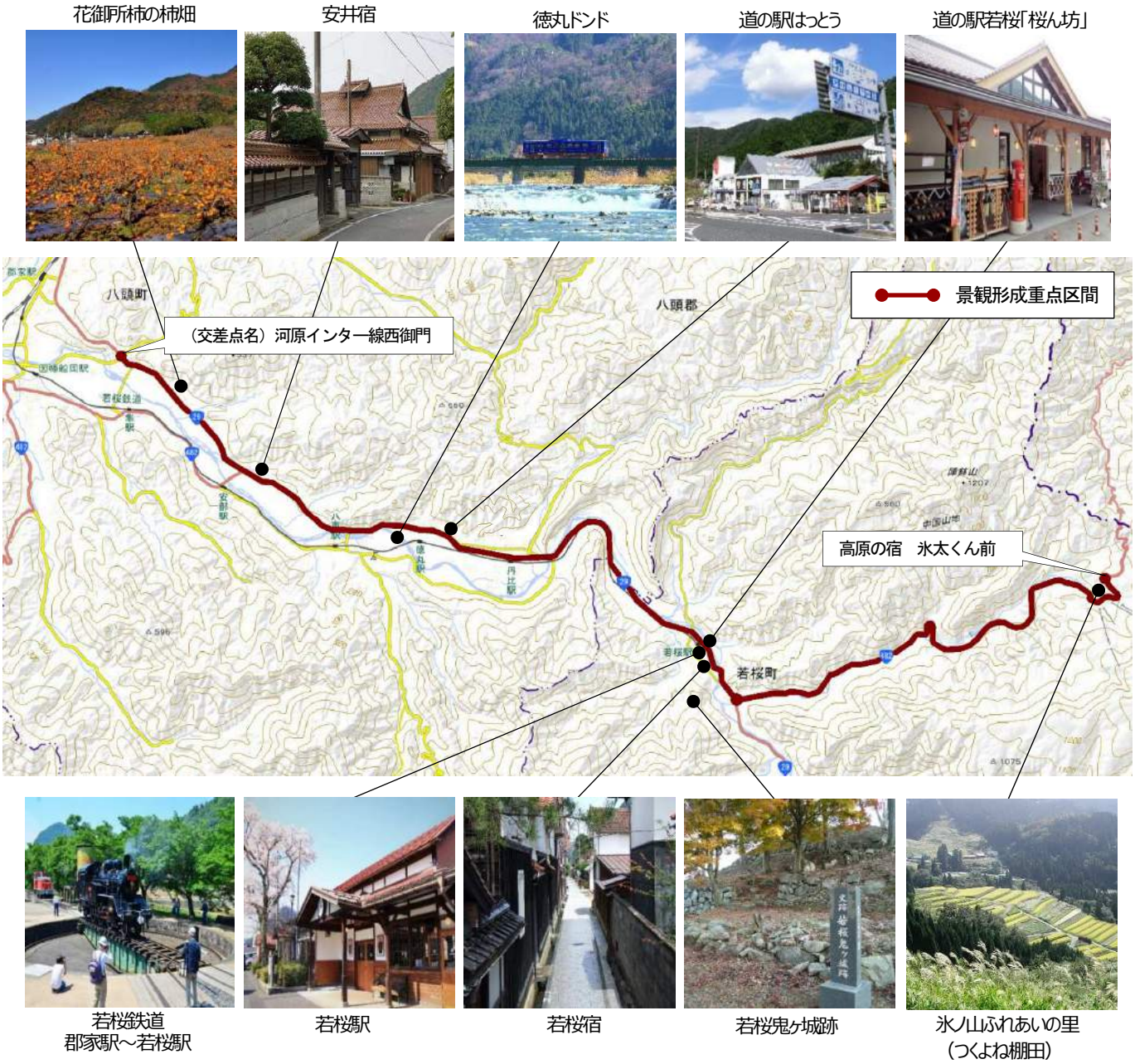
今後、個々の整備にあたっては、今回得られた意見・アイデア等を踏まえつつ、さらに専門家や住民の意見を聴きながら丁寧な検討を行い実行していくこととする。住民の意向を反映する手法としては、住民参加型のワークショップで検討することなどが考えられる。

新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」（R3.4.30）

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
景観資源①（若桜鉄道　各駅舎・施設）		
	A 発表	・隼駅はバイクとの連携が必要ではないか。バイク型のベンチを設置したり、駅をバイクとのつながりを持たせた外観にしてPRする等。 ・隼駅はバイクの聖地として、撮影スポットや休憩スペースを設けてはどうか。 ・若桜駅にも桜があるので、桜と駅が見渡せる場所にベンチを設置してはどうか。 ・若桜駅の新たにできたカフェで、スイーツを提供して若い女性客の取り込みを図ってはどうか。
	B	・若桜駅、若桜宿、道の駅について、相互に人が流れる仕組みづくりが必要。
	C	・若桜駅はどこから見るのがよいのか。駐車場から見やすくすることはできないか。
	D 補足	・若桜鉄道を訪れる人は登録文化財である各駅舎の写真を撮りたい。汽車に乗ってしまうと、各駅舎を撮るのは難しい。レンタカー、レンタサイクル、各駅を回るためのシステムが必要。 ・１時間に１本の汽車に乗って来て帰って終わりでは、滞留時間が確保できず、お金が落ちない。 ・因幡船岡駅、駅のホームや車両から見下ろせる田んぼがあり田んぼアートを見て楽しめるようにしてはどうか。（カントリーエレベーター南側） ・鯉のぼりを各駅で飾ろうとしているが、すべて徳丸ドンドに掲げて、車内からの景観を楽しんでもらうのもよいのではないか。汽車に乗っている人が楽しめる工夫をすれば、旅客が増えるのではないか。 ・隼駅、一人旅のライダーも多く、自分を入れた写真が取りにくい。カメラ台で、ライダーをおもてなししてはどうか。浦富海岸などにある。
	E	・若桜駅を眺める場所がない。 ・お金の落ちる仕組みづくりが必要。 ・ＰＲ等に沿線の桜スポットが活用できないか。
	F 補足	・町外の方、県外の方向けに、ビューポイントマップがあるといいのではないか。 ・国道から各駅舎への入口が分かりづらく、何か表示がほしい。 ・各駅を使ったイベントを開催してはどうか。 ・若桜駅内の桜の周辺にベンチを設置してはどうか。
	堀先生	・利用者の立場になって丁寧に考えることが大事。わずかな時間でも駅に寄った証に写真が取れるような工夫等。 ・サービス一辺倒では長続きしない。客が気持ちよくお金を落とすこととセットで考える必要あり。
	温子氏	鉄道愛好家はおしなべて鉄道以外にお金を使わない。鉄道愛好家やライダーのためだけという具合に初めから間口を狭くするのではなく、いろんな方をターゲットにすることを考えたほうがいい。
景観資源②（若桜宿（仮屋通り・蔵通り））		
	A 発表	・マップはあるようだが、マップを受け取れる場所をわかりやすくPRすべき。 ・貴重な建物、まち並みがあるのでもっとアピールすべき。 ・水路も見所の一つ、ＰＲポイントではないか。 ・宿泊施設を整備して滞留時間を確保してはどうか。
	B	・まち巡りの順序、どう歩いたら楽しいかが分かるといいのではないか。 ・水路の水を引き込んで鯉を泳がせ、それを鑑賞できるようにしてはどうか。
	C	・空き家の活用を検討する必要がある。 ・仮屋通り、蔵通りにベンチを置いてはどうか。 ・仮屋通りを石畳で整備してはどうか。
	D 補足	・蔵通りの蔵の中をみることができない。ベンチや滞留ポイントない。寺もありおもしろそうだが、入りづらい雰囲気で、通り抜けてしまう。蔵を開放して見てもらう等の工夫が必要。 ・仮屋通り、建て替えが進んでおり、仮屋がとぎれとぎれになっている。復元して、冬の楽しみ方として、仮屋を体験できるようにしてはどうか。 ・電柱が目立っている。
	E	・景観条例を設けて規制してはどうか。
	F	・ベンチを置いてはどうか。 ・レンタサイクルがあるようだが利用されていない。 ・電線を地中化してはどうか。
	堀先生	（若桜町から） 仮屋に設置しているベンチの目の前が水路で稀に落ちる方がいる。景観への配慮と安全面の配慮の両立はどのようにしたらよいか。 ⇒人を丁寧にもてなすメッセージが伝わると評価される。落ちてもかまわないというメッセージが出ているとマイナス。落ちないように工夫しているというメッセージが伝わることが基本。例えばベンチの前は水路にふたをかける。地域の人が来訪者になったつもりで歩いてみて、危ないところは工夫する丁寧さが必要。
	温子氏	軒を復元するだけでなく、集客を積極的に考えていくことがいいのではないか。

4）重点的に景観形成に取り組む区間

新因幡ライン沿線は、日本の原風景と呼ぶにふさわしい景観が広がる区間ばかりではなく店舗等が立ち並び経済活動が比較的盛んな街なかの区間も存在している。本行動計画では、前者の景観を保全し、活用していくことを主な目的としており、効果的に景観形成に取り組んでいくため、沿線周辺に多くの景観資源等を有し、農山村や田園・柿畑等の風景が広がる国道 29 号八頭町西御門から若桜町浅井の区間及び四季折々の美しい渓谷景観が特徴の国道 482 号若桜町浅井から同町つく米までの区間（当該区間を「3 行動計画」において「景観形成重点区間」という。）について、当該区間から視認できる範囲を対象に重点的に景観形成に取り組んでいくこととする。



３　行動計画

（１）景観配慮が必要な要素の整理

１）景観規制の現状と課題

若桜町及び八頭町の区域における建築物の建築や工作物（屋外広告物を含む）の設置は、鳥取県景観形成条例及び鳥取県景観計画が適用され、一定規模以上のものについて県への届出を義務付けている。届出の対象となる行為については、鳥取県景観計画に定める景観形成基準（位置、外観及び色彩等の基準）に適合する必要があるが、小規模な建築物・工作物は規制の対象となっていない。

また、同区域における屋外広告物の設置は、鳥取県屋外広告物条例が適用となり、新因幡ライン沿線及び若桜鉄道沿線はそれぞれの両側 200m（国道 29 号八頭町堀越～安井宿の区間にあっては両側 500m）の範囲が市町村の許可が必要な制限区域として設定されている。しかし、小規模な自家用広告物（事業所等の敷地で事業所名等を表示する広告物）等については、若桜町又は八頭町の許可を得ることなく設置が可能であり、また、許可不要な広告物にも適用される一般的基準のうち色彩に係る制限も一定規模以上のものにしか適用されない。（屋外広告物法に基づく広告物の表示及び掲出物件の設置にかかる許可、指導監督の事務は、鳥取県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例により若桜町及び八頭町が行っている。）

県では、景観形成と経済活動等との調和を図る必要があるため、県下広域に適用する基準は規模の大きな建築物、工作物への適用にとどめ、適用される場合でも緩やかなものとなっている。

このため小規模な広告物や建築物等が自由な形態意匠により設置され、新因幡ライン沿線の景観を阻害する要因の一つとなっている。

【新因幡ライン沿線における景観法及び屋外広告物法に基づく規制基準】

<table>
<tr><th>規制法</th><th>規制主体</th><th>規制基準を定める規程</th><th>適用規模</th><th>主な基準</th></tr>
<tr><td>景観法</td><td>県</td><td>鳥取県景観計画
（景観形成基準）</td><td>＜建築物の建築及び工作物の設置＞
高さ 13m又は築造面積 1,000 ㎡を超えるもの</td><td>外観のベースカラーは次のとおりとすること
<table><tr><th>色相</th><th>彩度</th></tr><tr><td>0.1R～10R</td><td>4 以下</td></tr><tr><td>0.1YR～5Y</td><td>6 以下</td></tr><tr><td>上記以外</td><td>2 以下</td></tr></table></td></tr>
<tr><td rowspan="2">屋外広告物法</td><td rowspan="2">町</td><td rowspan="2">鳥取県屋外広告物条例
（一般的基準、許可基準）</td><td>＜一般的基準のうち色彩基準が適用される規模＞
高さ 10mを超え、かつ表示面積 30 ㎡を超えるもの</td><td>1 面の表示面積の 1/2 を超えて彩度 8 以上の色を使用しないこと</td></tr>
<tr><td>＜許可が必要な自家用広告物の規模＞
一つの事業所等につき、広告物の表示面積の合計が 10 ㎡を超える場合</td><td>広告物の種類により高さや表示面積の基準を設定

（野立て広告の例）
・高さ 10m以下
・表示面積 30 ㎡以下</td></tr>
</table>

２）景観診断で抽出された景観配慮が必要な要素の整備方針

令和２年９月 26 日に新因幡ライン沿線の代表的な 12 地点を抽出して景観診断を行った。景観診断は、20 名が参加してワークショップ形式で行い、大別して以下に掲げる要素ごとに課題を整理した。この診断結果に基づき各要素ごとの整備方針を検討する。

ア）公共広告物

① 公共広告物の点検

若桜町、八頭町及び県の広告物は、施設案内、環境美化等の意識啓発、地域のＰＲなどの目的で設置されているが、その大部分が設置から相当年数経過しており、目的を終えたもの、劣化が進んでいるものが散見される。インターネットなど情報通信技術が発達した現代では、より効果的な代替手段が登場しており（例えば、施設案内はカーナビゲーションや地図アプリ、意識啓発やＰＲはソーシャルネットワークサービスなど）、地域のＰＲを行う看板がかえって景観を阻害するなど逆効果となっているものもある。

このことから沿線の公共広告物については、設置者が広告物の目的、必要性について個別に点検し、検討を行っていく。

② 公共広告物の撤去、改修及び維持保全

設置者は点検の結果により、役割を終え必要性の乏しい広告物は撤去し、設置を継続する必要がある広告物は鳥取県屋外広告物条例に基づき２年毎に安全点検を行うとともに、規模、デザイン・色彩が周囲の景観にそぐわないものは調和させるよう改修を行う。

設置者は、この方針に沿って広告物の維持保全に関する計画を作成し、計画的に改修、維持保全を行うよう努めるものとする。

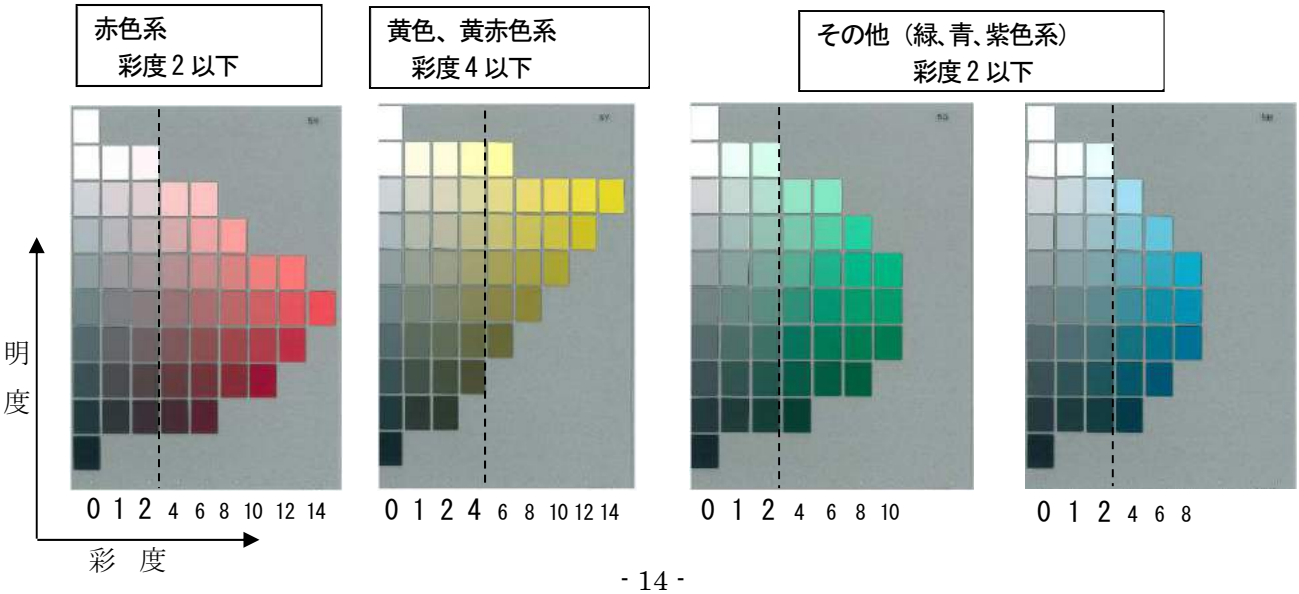
設置者が広告物を景観に調和するよう改修を行う場合は、規模、デザイン・色彩について、鳥取県景観計画に定める景観形成重点区域に適用される景観形成基準（以下「重点区域景観形成基準」）を適用するものとする。

さらに、町及び県は、新因幡ラインの公共広告物に使用する色や色数（例えば、特定の２色又は３色までとする等）などのデザインコードを定める公共サイン計画の作成を検討し、沿線の公共広告物をシンプルかつ統一感が感じられるものとなるよう配慮する。

【鳥取県景観計画における景観形成基準（色彩）】

色相	景観計画区域	景観形成重点区域
赤色系（R）	4	2
黄色系（Y）、黄赤色（YR）	6	4
その他（G、B、P 等）	2	2

＜景観形成重点区域の場合＞　それぞれ点線より左側の色が使用できる



イ）民間広告物及び民間建築物・工作物

① 民間広告物等の誘導

景観形成重点区間の沿線では、民間の広告物及び建築物・工作物（以下「民間広告物等」という。）については、鳥取県景観計画に定める重点区域景観形成基準に適合するよう誘導を図っていく。

町は、住民・事業者等に対し、チラシや各町のホームページ等により、公共広告物の改善の取組みを紹介し、同様に民間広告物等が同基準に適合するよう協力を呼びかける。さらに、屋外広告物設置等の許可が必要な広告物については、許可申請の手続き時に協力を呼びかける。また、住民・事業者等とワークショップや意見交換会などを開催し、新因幡ライン沿線の景観改善に取り組む意義について理解を求め、啓発していくことなども考えられる。

なお、既存広告物等については、町で改修の誘導方策を検討し、県は町に対し必要な支援を行う。

町は、上記の民間広告物等の重点区域景観形成基準への適合を誘導しつつ、沿線の景観を保全するためより詳細な独自の規制が必要な場合は、法的根拠を伴った景観規制ができるよう景観行政団体への移行を検討していく。

【景観行政団体への移行と景観計画の策定】

市町村は景観法に基づく景観行政団体となることによって、独自に景観計画（景観形成基準）を定め、また屋外広告物条例を設け、地域の実情に応じたきめ細かい規制を行うことができる。（条例・景観計画の制定・改正や景観法に基づく届出に係る事務を町で行うことになる。）

② 地元貢献企業等への働き掛け

那須街道（那須町）、京都市では、区域を定めて広告物に使用する色を限定して統一感のある景観を創り出している。こうした事例を参考として、町及び県は協力して大手コンビニ、金融機関、郵便局などの事業者に対して新因幡ラインにおける景観形成の取組み及びその意義について理解を求め、景観に配慮した広告物とするよう協力を働き掛けていく。

景観への配慮として、例えば、店名等の表示について、ベース色を白とし文字は黒又は茶系色とする（ベースの面積が小さい場合は、逆も可とする）ことや、あるいは地元産木材を使用した設えなどを提案していく。

事例　那須街道の看板（那須町）

事例　ローソン（京都市）

八頭町西御門のローソン

（誘導していくデザインの例）

③ 小規模な広告物の誘導

蛍光色が用いられることが多いのぼり旗、派手なポスター類は、景観形成に好ましくない影響を与えるため、町は、景観形成重点区間においては、必要な期間に限定して設置されるものを除き、重点区域景観形成基準に適合するものとするよう誘導を図っていく。

④ 違反広告物の取締り

鳥取県屋外広告物条例の規定に違反している広告物（以下「違反広告物」という。）は、景観形成に悪影響を与える恐れが高い。町は違反広告物を取り締まるため、景観形成重点区間を中心として毎年パトロールを行い、違反広告物の設置者に対して同条例に基づき違反広告物を是正するよう指導を行い、指導に従わない場合は同条例に基づき必要な措置の命令を行う。

＜違反広告物の除却命令等の手続きフロー（鳥取県屋外広告物条例第８条）＞

違反広告物の確認　定期パトロール、周辺住民による通報等
↓
注意指導　注意文書・口頭（電話、面接）による指導
↓指導に従わない場合
是正指導　指導文書の送付（是正猶予期間は２か月程度）
↓指導に従わない場合
弁明機会の付与　鳥取県行政手続条例に基づく不利益処分前の弁明機会（２０日間程度）
↓弁明に理由がない場合
除却等の措置命令　除却命令違反については、罰則規定あり（５０万円以下の罰金）
↓除却命令に従わない場合
代執行手続　行政代執行（代執行費用は設置者から徴収）

ウ）道路附属物等

景観診断では、景観に配慮を要する要素としてガードレール、ガードパイプ、道路照明灯、電光掲示板、道路案内標識等が指摘された。それぞれ交通事故防止や案内・誘導等の目的・機能があり必要な設備として設置されている一方、景観に与える影響が小さくない。これらの道路附属物等を沿線に設置する場合は、目的や景観に与える影響の度合いを比較考慮し、地点や区間ごとに対応を検討する必要がある。

道路管理者である国土交通省及び県は、「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」（道路のデザインに関する検討委員会）を参考に、次に掲げるとおり沿線の景観に配慮した道路附属物等の整備、管理を検討していく。

また、新因幡ラインに接続する県道及び町道についても、接続する交差点付近等、可能な範囲で同様に対応していくものとする。

① 色彩等

道路附属物等の新設、更新又は改良を行う場合に使用する色は、法令等に定めがある場合を除き、住民・団体等に「八頭ブラウン」という名称で親しまれているダークブラウンを基本とする。（視線誘導や注意喚起等のため反射シートを巻き付けるなど、異なる色彩を使用・付加する場合がある。）

また、住民・団体等が本行動計画の内容に沿って行うガードレール等を塗装する活動について、道路管理者は必要な協力を行うものとし、町は、活動の支援及び新たな団体等の掘り起こしを図る。

地域住民等によるガードパイプの塗装（八頭町大門地区）

② 防護柵

景観形成重点区間では、景観を見通し易くするため、ガードパイプ又はガードケーブル等の透過性の高い防護柵の採用を検討するものとする。

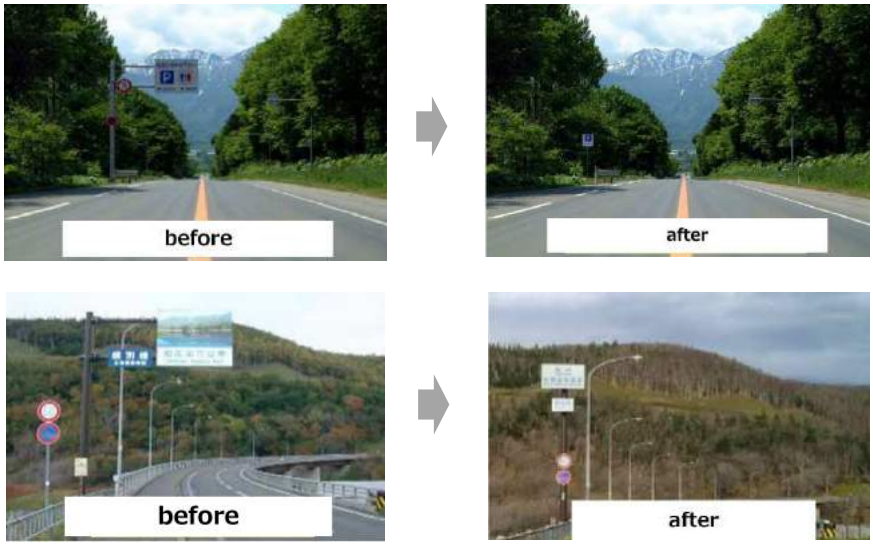
ガードパイプ

ガードケーブル

③ 道路案内標識

大型の道路案内標識又は複数の道路案内標識が集中して設置されていることにより、良好な景観の支障となっている地点では、標識板面の小型化・集約化や設置位置を変更することを検討するものとする。

（北海道の事例）



④ その他の附属物等

国道 482 号の若桜町茗荷谷他４箇所に設置されている凍結防止剤散布機器は、冬期期間以外はカバーが掛けられているが、カバーの色彩が黄色と目立ち過ぎるため、周辺景観に調和する茶系色のカバーに取り替える。

このようなカバー類や長期にわたって設置する仮設物（仮設用防護柵等）等については、同様に茶系色のものを採用するなど景観への配慮に努めるものとする。

エ）沿道の除草、植栽の管理等

沿道の除草は、道路管理者が歩行者・車両等が安全に通行できるよう路肩周辺の除草を定期的に行っているが、全ての区間の除草を毎年度実施し、良好な景観を維持することは困難であるため、景観形成重点区間については、重点的な除草の実施を検討するとともに、ボランティアの活用を推進する。

ボランティアの活用については、県では「河川・道路ボランティア促進事業」を実施し、住民が土木施設愛護ボランティアとして県が管理する道路・河川の除草・清掃等を行うことで、地域の実情に応じた環境保全を推進している。

また、国土交通省は、道路の清掃、植栽管理等を行うボランティア団体と協定を締結し、必要な用具等を提供する「ボランティア・ロード」制度を設けている。国道29号では、R29活性化委員会が国土交通省と協定を締結し、八頭町立八東小学校緑の少年団や更生保護女性会八東支部等と協働で沿線の植栽管理・美化活動及び地域の活性化に取り組んでいる。

R29活性化委員会からは、こうした活動を継続していくための課題として、苗・肥料代等の費用負担や参加者の確保の難しさなどが挙げられている。

町は、住民・団体等による緑化・美化活動の継続及び新たな団体等の掘り起こしを図るとともに、緑化・美化活動の広報・周知による沿線住民への啓発等を行う。

（鳥取県「河川・道路ボランティア促進事業」の概要）

区分	参画型ボランティア促進事業	協働型ボランティア促進事業	スーパーボランティア支援事業
目的	自主的な環境美化等（清掃・除草・除雪等）を行う団体に対し、活動の実施に必要な援助を行う。	県とのパートナーシップに基づいて協定を結び、一定区間の維持管理（除草・植栽管理・除雪等）を行う団体の活動を支援する。	公園、河川敷等を活用した地域づくりや賑わい創出の活動と併せて適切な維持管理を継続して行う団体の活動を、県と市町村が連携して支援する。
活動規模	任意の規模	道路 0.5km 以上 河川 0.2ha以上 植栽枡 50 ㎡以上	活用する公共空間の範囲
交付金等	【奨励金】 参加者　100 円／人・時間 草刈機等 100 円／台・時間 （上限 10 万円／年）	【交付金】 河川・道路・公園等 40 円／㎡ 植栽枡 500 円／㎡ 歩道除雪 20 円／m （上限 40 万円／年、ただし、歩道除雪は 20 万円／年）	【交付金】 河川・道路・公園等 40 円／㎡ 植栽枡 500 円／㎡ （上限 60 万円／年） 【簡易施設設置等交付金】 施設設置の原材料費等、伐開除根に必要な機械等の使用料等の額 （1 団体につき 50 万円まで）

令和２年９月 12 日青木国土交通副大臣視察
八東小緑の少年団（八東小前）

オ）バス待合所

バス待合所は、道路管理者、町又は個人（地域の代表者等）により設置されているが、経年により施設の老朽化、劣化が進んでおり、このまま放置すると沿線景観の支障となる恐れがある。

バス待合所のうち道路管理者又は町が管理するものについては、現在の閉塞的な印象を与えているものを、周辺の景観と調和した開放的で軽快な印象を与えるものに改修することを検討する。改修方法としては、劣化したすりガラスの交換や色の塗り替え又は壁面全体を透明なものにすること等が考えられる。

また、個人のバス待合所は、イ）「民間広告物及び民間建築物・工作物」の方針に準じて改修されるよう誘導を図る。

（八頭町管理の例）

（個人管理の例）

カ）電線・電柱等

① 景観形成重点区間の無電柱化

私たちの生活に不可欠な電気・通信に必要な電線・電柱等は、古くから道路沿いを中心に設置されてきた。国道 29 号沿線においても多くの電柱が建ち、電線が張られ、景観を阻害している区間がある。国は、昭和 60 年代から防災減災、景観形成・観光振興の観点から無電柱化を推進しており、平成 28 年には「無電柱化の推進に関する法律」が制定されている。これまで無電柱化には多大なコストを要するため、主に都市部において実施されてきたが、無電柱化の低コスト工法の一層の普及拡大を目的として平成３１年に「道路の無電柱化低コスト手法導入の手引き（案） Ver.2」を国土交通省がとりまとめている。

町及び県は、景観形成重点区間のうち、「道の駅若桜『桜ん坊』」「道の駅はっとう」「物産館みかど」の周辺区間について、電気通信事業者に無電柱化、鉄塔の移設等の景観への配慮を働きかけていく。

② 若桜町若桜宿の無電柱化

まもなく国の重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」という。）に選定される若桜宿は、伝統的な町家の修復・保全など町並み整備に向けた取組みを進める計画になっている。また、交通安全や防災の観点からも、重伝建地区内の歴史的な町並み景観の支障となっている電柱や電線について、他の重伝建地区の取組み（45%の重伝建地区が無電柱化を実施）を参考にしながら、無電柱化を検討していく。整備にあたっては、例えば、「歴史まちづくり法」や街なみ環境整備事業を活用することなどが考えられる。

【街なみ環境整備事業（国土交通省補助）】

住宅等が良好な美観を有していないなど住環境の整備改善を要する区域において、住宅や地区施設、生活環境施設等の整備を行うことで、住民の発意と創意を尊重したゆとりとうるおいのある住宅市街地の形成を図る。

＜補助対象（補助率）＞

・道路整備、公園整備、無電柱化、空き家の除却、景観重要建造物の整備（市町村等の 1/2）

・住宅等の修景（市町村等の 1/2 かつ民間が要する費用の 1/3）

【名古屋市有松重要伝統的建造物群保存地区の事例】

地元有志が中心となって、無電柱化及び道路の一方通行化について住民の合意形成が図られた。脇道の電柱に変圧器を設置すること及び当該路線区域外に地上機器を設置することで歴史的町並みの景観に配慮されている。

（整備前）

（整備後）

キ）花御所柿畑の防風ネット

八頭町内に広がる花御所柿畑の風景は、新因幡ラインにおいて最も重要な景観の一つである。しかし、多くの柿畑で使用されている人工的な青色の防風ネットがよく目立ち、景観診断においても景観の支障となっていると評価されている。

柿の栽培において、防風ネットの色に特段の意味はなく、一部の柿畑で使用されている黒色の防風ネットは周辺の景観に溶け込み、柿畑の風景を阻害しないものとなっている。

町は、農協等の協力を得ながら、柿農家に対して本計画の取組みに対する理解を求め、防風ネットの更新の際には柿畑の風景を阻害しない黒色又は茶系色を使用するよう誘導を図る。

ク）遊休・荒廃農地等

農業後継者の減少と高齢化による遊休農地、荒廃農地の発生は全国的にも深刻な問題であり、新因幡ライン沿線は、ふるさとの原風景と言うべき農村景観が大きな特徴となっているが、荒れた田畑が農村景観を阻害する要因の一つとなっている。

町は、良好な農村景観の維持、保全を図っていくため、次に掲げる事業等の活用を住民、農業者等に働きかけ、新たな景観スポットの造成など新因幡ラインの魅力向上につなげていく。

【八頭町若桜鉄道沿線周辺景観形成事業】

沿線の遊休農地や耕作放棄地又は駅舎周辺の草刈りや草花の植栽・果樹の植樹等を集落・団体に委託し、若桜鉄道沿線の魅力向上を図る。

（定額５万円、令和２年度実績：11 団体）

【八頭町地力増進作物等奨励事業】

地力増進作物又は景観形成作物を作付けする農業者に対し奨励金を交付することにより、農地維持、連作障害の回避、地力増進、輪作体系の確立とともに、遊休農地化の抑制を図る。

（５千円/10a、令和２年度実績：79 名、取組面積 322,890 ㎡　交付金総額 1,614,450 円）

【多面的機能支払交付金】

農業・農村の有する多面的機能（国土保全、水源涵養、自然環境保全、良好な景観形成等）の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援

（北栄町下種　地域ふるさと保全会の活動の事例）

遊休農地対策として、ひまわりやコスモスを植える景観形成活動に取り組んでおり、観光資源として facebook 等を活用した情報発信も行っている。

３）民間活動への支援

県は、広域にわたる景観資源を共有する複数の市町村が連携・協調して行う景観形成の取組みを推進するため、これらの市町村が共同で策定する広域景観形成行動計画に基づく事業に補助金を交付する「広域景観形成支援事業」を令和３年度当初予算で創設した。

本事業は、本行動計画による取組みをモデル的に支援し、今後、他の市町村へ波及させていくことを想定している。

本事業では、住民・団体等が行動計画の内容に沿って行う活動への助成（市町村を介した間接補助）をメニューの一つとして掲げており、上記２）の景観配慮が必要な要素への取組みに沿った住民・団体等の活動が助成の対象となる。

町は、「広域景観形成支援事業」を活用し、住民・団体等の活動への支援を検討する。

【助成対象となる活動の例】

○ 屋外広告物及び建築物・工作物の改修等（重点区域景観形成基準に適合する改修等）
○ ガードレール等の塗装（ダークブラウンへの塗装）
○ 沿道の植栽管理・美化活動
○ 花御所柿畑の防風ネットの交換（青色のものから黒色又は茶系色のものへの交換）

鳥取県広域景観形成支援事業の概要（令和３年度当初予算）　（単位：千円）

補助金名	実施主体	補助対象	限度額	補助率	予算額
広域景観形成支援事業補助金	市町村	○展望地・滞留拠点（道の駅等）整備に要する費用 ・基本構想策定費 ・基本計画、基本設計、詳細設計費 ・整備費	500/箇所	1/2	2,000
		○住民啓発のための研修、ワークショップ等の開催に要する費用（講師謝金・旅費、会場費、需用費等） ○広報等に要する費用（委託費等）	100/件		400
		○景観への配慮を目的とする広告物の改修等に要する費用 ○農業用資材等の改修又は交換等に要する費用 ○美化・緑化活動（ガードレール等の塗装、植栽管理）に要する費用 ○民間事業者等が行うこれらの事業に対する補助に要する費用	500/市町村		1,000
合計					3,400

（２）景観資源の保全・活用

２（４）３）のとおり選定した景観資源については、次のとおり保全・活用を検討していく。

① 若桜鉄道　各駅舎・施設（若桜町若桜～八頭町郡家）

【　概　要　】

・昭和５年に国鉄若桜線として運営が始まり、昭和62年、沿線の若桜町・八頭町等が出資する第３セクター若桜鉄道（株）がＪＲから引き継ぎ、今日に至る。若桜駅～郡家駅の延長19.2ｋｍの路線。

・平成20年に全国ではじめて沿線全体の施設（若桜・丹比・八東・安部・隼・因幡船岡の駅舎と橋梁や転車台等）が国の有形文化財に登録され、貴重な地域の歴史的遺産として注目されている。

・観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」が走り、木造のレトロな駅舎や沿線の徳丸トンドと鉄橋などの懐かしい風景を走り抜け、笑顔と笑いが生まれる新しく懐かしい鉄道の旅を演出する。

【若桜駅】若桜町若桜

若桜鉄道終着駅。構内には駅本屋をはじめプラットホーム、手動式転車台や給水塔など昭和５年開通当時の設備が良好な状態で残されている。令和元年度に著名な工業デザイナー水戸岡鋭治氏のデザインによる駅舎改修を行い、駅舎内にカフェを設置した。

【隼駅】八頭町見槻中

・駅名にちなみスズキの大型バイク「隼」の愛好家等（隼ライダー）の「聖地」となっている。毎年、８月第１日曜日に「隼駅まつり」が開催され、全国各地から2,000台余りのバイクが集結する。

・３月中旬から12月上旬にかけて、駅内ショップ「把委駆」（ばいく）が土日祝日に開店する。

【安部駅】八頭町日下部

・真っ直ぐに伸びる線路の景観が素晴らしく「男はつらいよ」のロケ地になった駅。近隣集落の住民に配慮して入口は２か所に設けられている。

・昔ながらの木製切符売り場や改札は当時のまま現存している。

【現状・課題】

平成30年３月の観光列車「昭和号」の運行を契機に、駅舎・施設を含めたトータルデザインとして、同年から令和２年度にかけて各駅舎のレトロ化を進め、歴史のある駅舎などの関連施設は地域資源や観光資源としての価値を高め、町外から人を呼び込むツールとして重要性が増してきている。今後は、３台の観光列車や八東駅行き違い施設整備を活用した列車増便による利便性を活用し、乗って楽しんでいただくだけではなく、降りても楽しめる仕掛けづくりが課題となっている。

【保全・活用、整備の方向性】

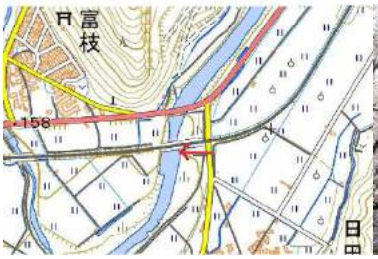
・列車や駅舎、登録有形文化財施設等の撮影スポットの整備、情報発信、滞留拠点化を検討する。また、撮影スポットに移動式カメラ台を配置するなど利用者視点による工夫を検討する。
・若桜鉄道全体を博物館に見立て、各駅舎に国鉄当時の遺構（秤、待合）などの説明板の設置や往時の写真を展示することを検討する。
・レトロな駅舎の風景を阻害しないデザインのベンチ等の設置により休憩できる場所を設け、滞在時間の増加につなげる。

（若桜鉄道のビューポイント）

① 第１八東川橋梁

② 第２八東川橋梁

③ 第３八東川橋梁



④ 徳丸駅

⑤ 若桜駅

② 若桜宿（仮屋通り・蔵通り）（若桜町若桜）

【　概　要　】

中世、若桜鬼ヶ城の城下町として整備され、江戸時代以降は鳥取と姫路を結ぶ若桜街道と伊勢街道の宿場町・商業都市として発展した。「仮屋通り」「蔵通り」などの特色ある近代以前の建築が現存している。

【現状・課題】

・宿内には伝統的な建造物が良好な状態で残されている。しかし、少子高齢化や過疎化に伴い空き家や空き地が増加しており、若桜らしい町並みが失われつつある。
・文化財保護法に基づく重要伝統的建造物群保存地区の国選定に取り組むことが、住環境の整備と安心・安全で賑わいのあるまちづくりにつながると考え、事業の周知と地区の選定に向けた活動に取り組んできた。

【保全・活用、整備の方向性】

・地区内への啓発と地区外への情報発信を進め、一定の基準を満たす修理・修景等への支援により、町並み保存と賑わい創出を図る。
・電柱や電線が、伝統的建造物群保存地区内の歴史的な町並み景観の支障となっており、また、交通安全や防災の観点からも、区域内の無電柱化を検討していく。
・空き家となっている歴史的古民家を宿泊施設として保存・活用し、アフターコロナを見据えた滞在型の観光プランを検討する。
・蔵の見学や寺巡り等、気軽にまち歩きが楽しめる工夫やモデルコースの設定を検討する。
・観光客が気軽に休憩できるベンチを設置し、おもてなしの雰囲気醸成を図る。

③ 安井宿（八頭町安井宿）

【　概　要　】

・若桜街道の宿駅に指定された宿場町。
・安井宿内にはかつての若桜往来沿いに赤瓦の家並みが続き、宿の中ほどにはかつての郵便局だった近代建築が残る。さらに進むと愛宕神社の石段下には「右 いせ道／左 やま道」と印された石道標があり、宿場町の風情が残る町並みである。

【現状・課題】

・昔ながらの古民家が残っている一方で、一般的なデザインの家屋も建築されている。
・少子高齢化や、過疎化に伴い、空き家や空き地が増加しているうえ、保全が行き届かないため、景観に悪影響を及ぼしている。

【保全・活用、整備の方向性】

・古民家を改修・活用した地域振興を検討する。
・新築建築物のデザインを地域の特徴に馴染むようなものに誘導する。
・地元住民とのワークショップ等により啓発活動を行い、価値を再発見するとともに、宿場風情を残す現存建物の保存と地域ぐるみの取組みの推進を図る。

④ 花御所柿の柿畑（八頭町大御門地区）

【　概　要　】

花御所柿の一大生産地である「大御門地区」を縦断する国道 29 号沿いには、昔から脈々と栽培が受け継がれている花御所柿畑が広がり、晩秋には柿畑が一面にオレンジ色に染まった景色を見ることができる。

【現状・課題】

・柿畑にある青色のあるいは老朽化した防風ネットが景観を損なっている。
・鳥取いなば農協の直売所「物産館みかど」前や道の駅はっとう前などに広がる柿畑の風景が、ガードレールや電柱等に阻害されている。
・後継者不足により、田畑や果樹園の耕作放棄地や放置果樹が多くなっている。
・沿線は平坦な地形で展望台もなく柿畑を一望することが出来ない。

【保全・活用、整備の方向性】

・農協等の協力を得ながら、防風ネットの更新の際には、柿畑の風景を阻害しない黒色又は茶系色を使用するように誘導する。
・道の駅はっとうや物産館みかどから向かい側に広がる柿畑の間にある電線・電柱については、移設や無電柱化を検討していく。
・道路から観る柿畑の風景を阻害しているガードレールについては、透過性の高いガードパイプ又はガードケーブルの採用を検討していく。
・展望に最適な場所の選定と展望場所への誘導について検討を進める。
・後継者不足や高齢化が課題となっている柿農家の参加するワークショップ等により柿畑が創り出す景観の素晴らしさを再認識し、景観と生産の両面の維持向上を図る方策を検討していく。

（3）ビューポイント・滞留拠点の整備

２（４）３）のとおり選定したビューポイント・滞留拠点の整備については、次のとおり検討を進めていく。

① 道の駅若桜「桜ん坊」（若桜町若桜）

【　概　要　】

鉄道終着駅に隣接する全国的にも珍しい道の駅で駅構内にあるＳＬ車両を眺めることができる。売店は、地元産品の販売拠点となっており、自然豊かな地元の野菜・米に加え、ジビエ加工品やその他特産品が充実している。また、食堂では地元産のジビエを利用した料理が好評。新緑に紅葉、山遊び川遊びと通年を楽しめる若桜の拠点となっている。

開設日：平成 20 年６月１日
運営者：若桜町観光開発事業団（指定管理者制度）

【現状・課題】

・看板、幟旗、装飾等のデザインが洗練されていない。
・若桜駅や駅前とのアクセスが不便で、経済効果を十分に発揮しきれていない。

【整備等の方向性】

・若桜鉄道若桜駅前とのアクセスを改善し、周遊性創出による集客力の向上を図る。
・敷地内にコンビニを新設し、利便性の向上を図る。なお、建物は若桜材等を活用した特色あるデザインとし、屋外広告物についても、先進事例に倣い、景観に配慮された色調となるよう事業者と調整を図っていく。
・既存の屋外広告物についても景観に配慮したデザインでの改修等を検討する。
・無電柱化を検討する。
・ＳＬを見ることができ、ジビエが食せるなどの見所や魅力を発信するとともに、ＳＬや豊かな自然を満喫できるようベンチ等の設置を検討する。

事例　那須街道の看板（那須町）

事例　ローソン（京都市）

・氷ノ山自然ふれあいの里の観光客等が行き帰りに立ち寄るよう同地と連動したＰＲを検討する。

② 氷ノ山自然ふれあいの里（若桜町つく米）

【　概　要　】

若桜町春米の氷ノ山山麓エリアは「わかさ氷ノ山自然ふれあいの里」と称され、雄大な自然をフィールドにした登山やトレッキングをはじめ、スキー場やキャンプ場、氷ノ山自然ふれあい館「響の森」などの施設があり、表情豊かな四季の景観とあわせて年間を通してレクリエーションを楽しむことができる。また「日本の棚田百選」にも選ばれた美しい「つくよね棚田」の景観を楽しむことができる。

＜氷ノ山＞

大山に次いで中国地方で二番目に高い山（標高 1,510m）。氷ノ山後山那岐山国定公園の主峰を成し「母なる森」とも称されるブナの自然林や高山植物、天然記念物のイヌワシやヤマセミなど様々な動植物が生息している。

＜つくよね棚田＞

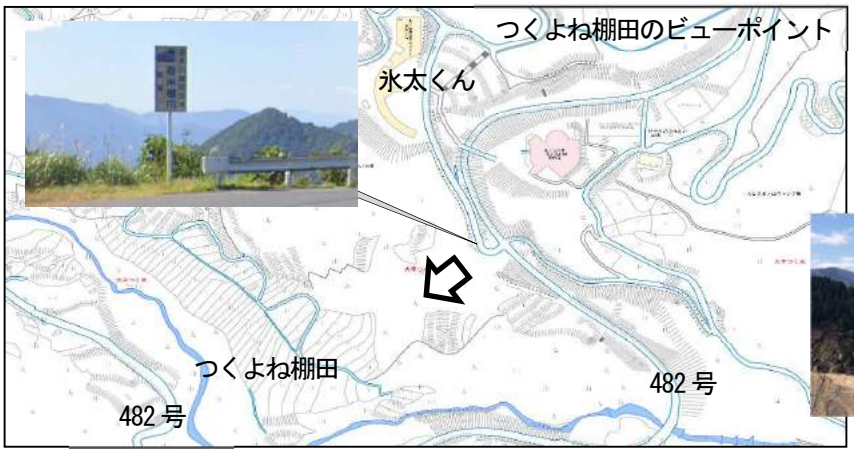
標高 800mの場所に位置し、農地の少ない山地を切り開かれた棚田は、訪れる人々の心を和ませる風景となっている。戦国時代から江戸時代にかけて造られたもので、畦畔（けいはん）の多くは下流の谷から運び上げた雑石により一度崩壊すれば決して復元できないような見事な石積みが施されている。

【現状・課題】

・グリーンシーズンのゲレンデ活用が課題となっている。
・棚田の中に耕作放棄区画があり、景観の悪化が懸念されている。

【整備等の方向性】

・グリーンシーズンの新たな誘客素材として、ゲレンデを使ったＥバイクやグラススキーの体験メニューを導入する。また、キャンプ場等の既存施設もブラッシュアップし、年間を通して宿泊を伴う観光客が訪れるよう魅力づくりに取り組む。
・民間団体等が行う誘客イベント等を支援する。
・棚田等のフォトスポットの検討と情報発信を行う。
・全国でもトップクラスの棚田の標高の高さを活かし、棚田で生産されたお米を地域のブランド米としてＰＲしていくことを検討する。
・棚田の景観を保全し観光振興に繋げていくため、棚田地域振興法に基づく国の指定棚田地域の指定や文化財保護法に基づく国の重要文化的景観の選定など農地保全や地域の振興に関する施策を検討する。



R3.4 現在、手前の木々で景観が遮られている。

③ 道の駅はっとう（八頭町徳丸）

【　概　要　】

・情報発信センターである道の駅（国土交通省管轄）に、地元のフルーツ中心に野菜や加工品などの特産品等を取り扱っている直売所「八東フルーツ総合センター」（町営）が併設されている。店内には喫茶店もあり、地元や県内外の人で賑わっている。（年間３万人程度の入込客数）

・道の駅前面には田園風景が広がり、近くには、梨、リンゴ、ブドウ等を栽培するフルーツ観光園がある。また、若桜鉄道の列車を見ながら八東地域を代表する山「遠見山」を眺めることが出来る。

・道の駅から上方に階段を上ると八東総合運動公園が整備されており運動ができるほか、春には桜が咲くなど、散策にもおすすめのスポット。公園からは遠見山などの眺めがよい。

開設日：平成８年４月１日

運営者：八東地域振興（株）（指定管理者）

【現状・課題】

・公園からの眺めでは電線等がそこまで邪魔にならず、眺望がよい。

・道の駅から田園や遠見山側を観ると電柱や電線が目立つ。

・のぼり旗や看板、キャラクターのモニュメント等のデザインが洗練されていない。

【整備等の方向性】

・道路に面した部分について、おもてなしの印象を与え、前面の風景を楽しむことができる憩いの場所となるようベンチの設置等の整備を検討し、滞在時間の増加を図る。

・既存の屋外広告物について、自然になじむデザインにするため撤去・改修等を検討する。

・無電柱化を検討する。

・眺めのよい上部の八東総合運動公園への誘導策を検討する。

④ 徳丸親水公園（八頭町徳丸）

【　概　要　】

千代川水系最大の支流一級河川八東川の徳丸地内にある河川公園（県所有、町管理）。公園内には駐車場・東屋が整備されている。若桜鉄道八東川第２橋梁と徳丸ドンドの両方を同時に見ることができるため、町内有数の写真撮影スポットとして知られる。

また、地元の人の休憩場所や絵画教室のデッサン場所等として利用されている。

３月末から４月上旬にかけては桜が満開になり４月中旬から下旬にかけては枝垂桜が見頃を迎える。

＜徳丸ドンド＞

・八東川の河川内にある弧を描くような自然滝。広い河原から近傍の山々も同時に眺めることがでる。

・一面が亀の甲形の平石になっているところがあり、幅約 72 メートル、上下約 1.6 メートルの高さがある。

・川水が岩面一面を「ドンドン」と音を立てて滝のように流れることから、「徳丸ドンド」という名前がついたと言われている。

【現状・課題】

・近年の豪雨災害等により、亀甲型の平石部分に行く途中に土砂が堆積し、雑草が生い茂って容易にドンドに近づくことが出来ない状況になっている。

・ドンドを流れる水量はその年の気候や積雪等により左右されるが、近年減少傾向にある。

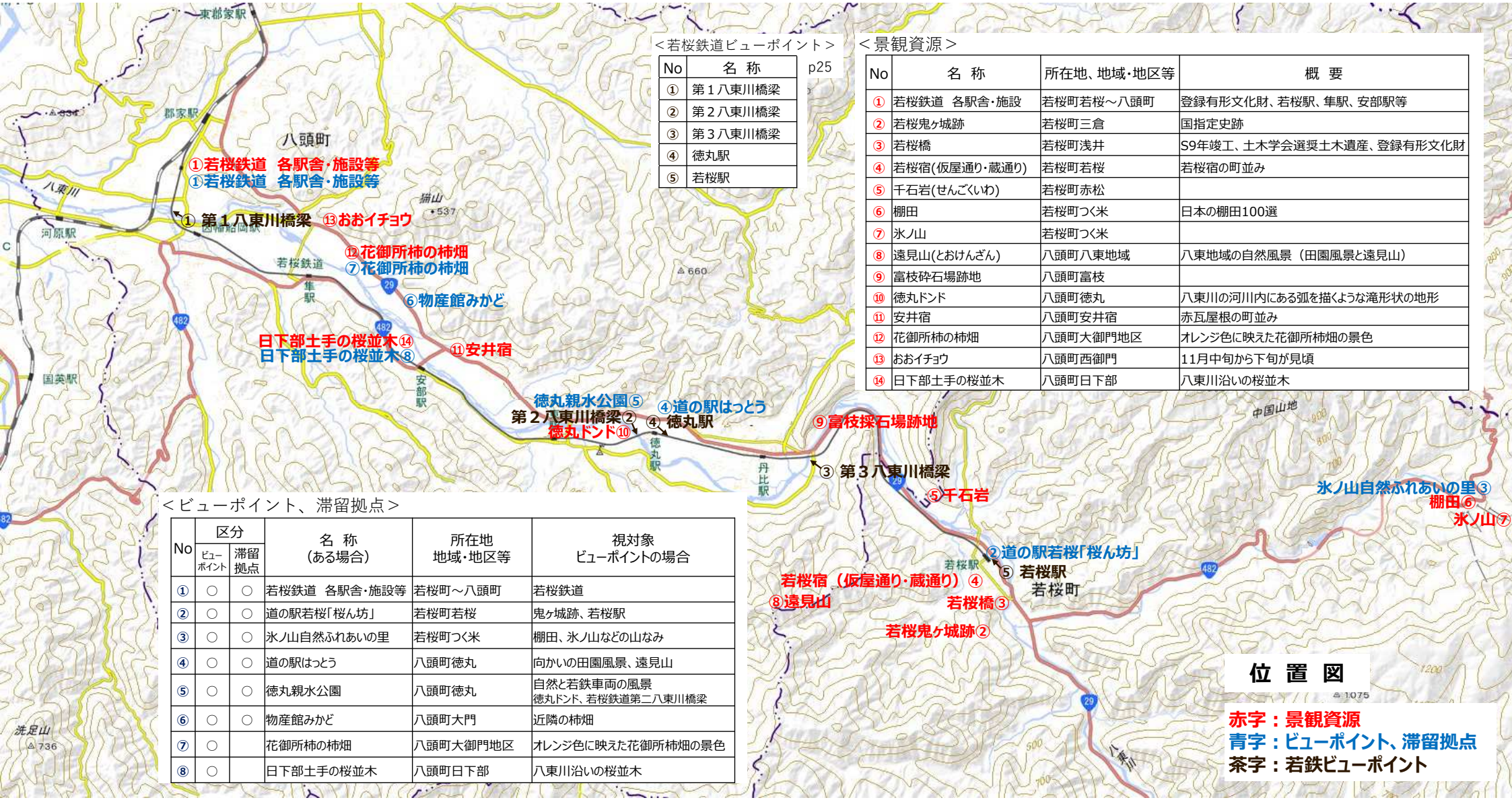
・若桜鉄道愛好家等にはよく知られるスポットであるが、広く一般に知られているわけではない。滞留拠点としてのポテンシャルを有しているが、周囲に経済効果を生む施設等はない。

【整備等の方向性】

・若桜鉄道と八頭町の自然を写真におさめるフォトスポットとして、若桜鉄道の愛好家や地域住民等の意見も聞きながら、公園施設や河川内除草等のあり方について検討する。

・若桜鉄道の通過時刻がスマートフォン等で確認できるような仕組みを検討する。

【徳丸親水公園で撮影した若桜鉄道の昭和号】



＜若桜鉄道ビューポイント＞

No	名　称
①	第１八東川橋梁
②	第２八東川橋梁
③	第３八東川橋梁
④	徳丸駅
⑤	若桜駅

p25

＜景観資源＞

No	名　称	所在地、地域・地区等	概　要
①	若桜鉄道　各駅舎・施設	若桜町若桜～八頭町	登録有形文化財、若桜駅、隼駅、安部駅等
②	若桜鬼ヶ城跡	若桜町三倉	国指定史跡
③	若桜橋	若桜町浅井	S9年竣工、土木学会選奨土木遺産、登録有形文化財
④	若桜宿(仮屋通り・蔵通り)	若桜町若桜	若桜宿の町並み
⑤	千石岩(せんごくいわ)	若桜町赤松	
⑥	棚田	若桜町つく米	日本の棚田100選
⑦	氷ノ山	若桜町つく米	
⑧	遠見山(とおけんざん)	八頭町八東地域	八東地域の自然風景（田園風景と遠見山）
⑨	富枝砕石場跡地	八頭町富枝	
⑩	徳丸ドンド	八頭町徳丸	八東川の河川内にある弧を描くような滝形状の地形
⑪	安井宿	八頭町安井宿	赤瓦屋根の町並み
⑫	花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
⑬	おおイチョウ	八頭町西御門	11月中旬から下旬が見頃
⑭	日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

＜ビューポイント、滞留拠点＞

No	区分		名　称 （ある場合）	所在地 地域・地区等	視対象 ビューポイントの場合
	ビューポイント	滞留拠点			
①	○	○	若桜鉄道　各駅舎・施設等	若桜町～八頭町	若桜鉄道
②	○	○	道の駅若桜「桜ん坊」	若桜町若桜	鬼ヶ城跡、若桜駅
③	○	○	氷ノ山自然ふれあいの里	若桜町つく米	棚田、氷ノ山などの山なみ
④	○	○	道の駅はっとう	八頭町徳丸	向かいの田園風景、遠見山
⑤	○	○	徳丸親水公園	八頭町徳丸	自然と若鉄車両の風景 徳丸ドンド、若桜鉄道第二八東川橋梁
⑥	○	○	物産館みかど	八頭町大門	近隣の柿畑
⑦	○		花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
⑧	○		日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

位　置　図

赤字：景観資源
青字：ビューポイント、滞留拠点
茶字：若鉄ビューポイント

（４）推進体制等

本行動計画の実行にあたっては、次の推進体制等により必要な検討や進捗管理を行っていくこととする。

①推進体制

行動計画策定委員会は、計画の推進、進捗管理等を行う組織に移行し、公共サイン計画の作成や景観資源等の具体的な整備の検討など、本行動計画に定める事項に着実に取り組んでいく。なお、必要に応じて、行動計画策定委員会のオブザーバーやアドバイザーに意見やアドバイス等をいただくこととする。

②個々の整備における留意事項

景観資源等の個々の整備にあたっては、デザイン等のわずかな違いが、景観に与える影響や訪れる人々に与える印象を大きく左右することから、デザインや設計の重要性に留意し、デザインや景観まちづくりの専門家に相談・依頼するなど、慎重かつ丁寧に検討を行う必要がある。

また、施設利用者の視点や住民の意向を反映させるためワークショップ等を活用し、民間団体とも連携しながら取り組んでいくこととする。

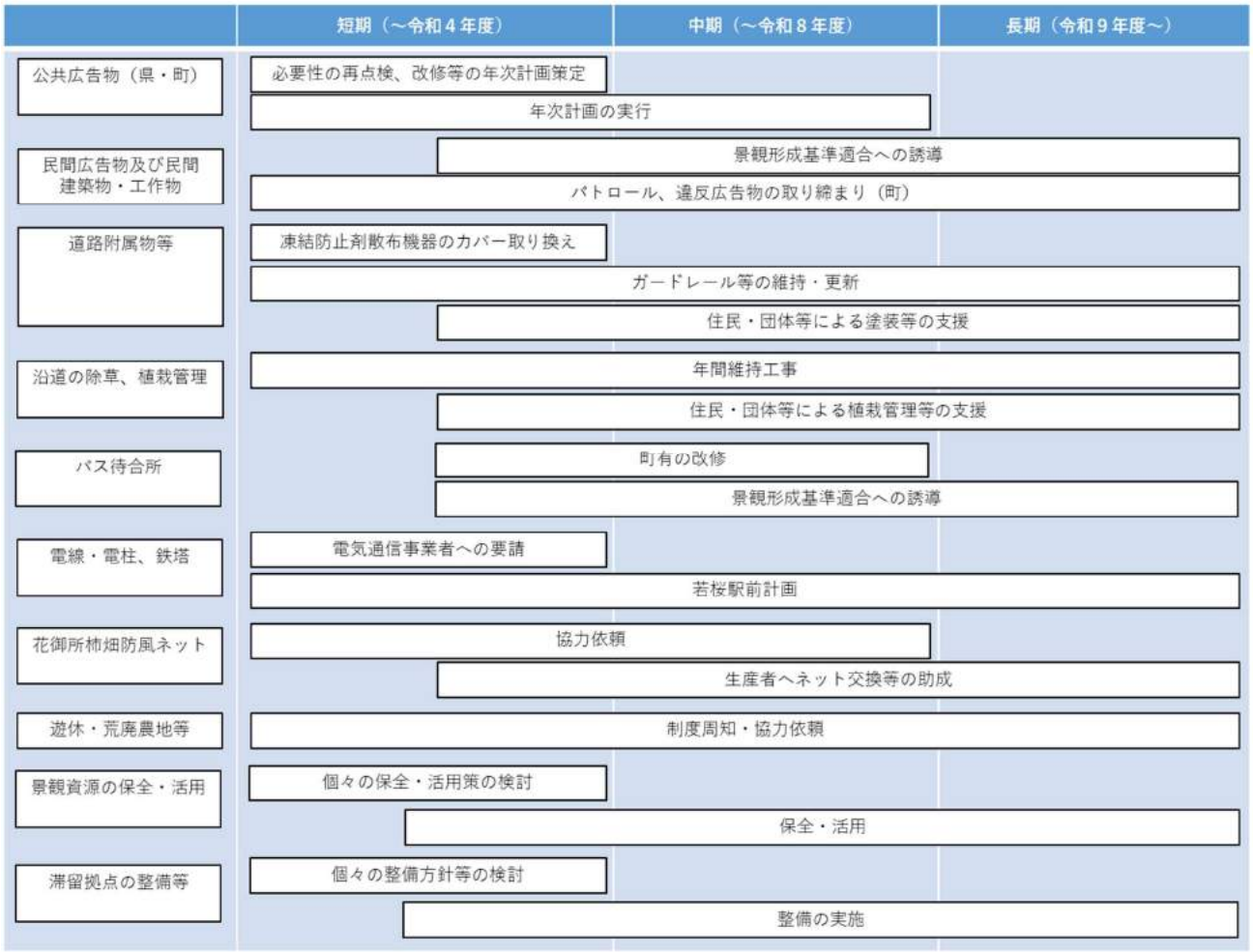
（５）行動スケジュール

上記において行動計画として掲げた項目ごとに、具体的なスケジュールを以下に示す。

計画策定後、速やかに短期間で取り組むもの、中期的に年次的に取り組んでいくもの、長期にわたって継続して取り組んでいくものに区分し、各期間については、次のとおりとする。

「短期」　行動計画策定後～令和４年度末まで
「中期」　行動計画策定後～令和８年度末まで
「長期」　令和９年度以降も継続して取り組んでいくもの

新因幡ライン景観形成行動計画スケジュール



（６）令和３・４年度の取組方針

行動計画策定後、令和３・４年度は、主に以下のことに取り組んでいく。

１）取組みの住民への周知

両町及び県は、行動計画概要版やリーフレットを作成し、両町及び県が本行動計画を策定し新因幡ライン沿線の景観形成に取り組んでいることを住民等に周知し、民間広告物等の景観への配慮や景観形成のための民間活動について、理解・協力を求めていく。

２）民間活動への支援制度の創設

各町は、県が令和３年度当初予算で創設した「広域景観形成支援事業」（ｐ23）を活用し、ガードレールの塗装、柿畑の青色防風ネットの交換、耕作放棄地での景観作物の栽培などの住民・団体等の活動への支援制度の創設を、令和３年度補正予算で検討する。

３）公共広告物の整理・改修等

既存の広告物の必要性を検討し、整理・改修等の年次計画を作成し、実行していく。

４）町有バス待合所の整理・改修等

既存のバス待合所の整理・改修等の年次計画を作成し、実行していく。

５）景観資源の保全・活用

① 若桜鉄道

撮影スポットの検討、若桜駅内照明変更等のレトロ化やベンチやテーブルの設置を検討する。

② 若桜宿

伝統的建造物群保存地区について地区内住民への意識啓発と地区外への情報発信、一定の基準を満たす修理・修景等への支援、地区内の無電柱化や観光客が気軽に休憩できるベンチの設置等を検討する。

③ 安井宿

地元住民とのワークショップ等による啓発活動の実施や古民家の改修・活用等を検討する。

④ 花御所柿の柿畑

展望に最適な場所の選定と展望場所への誘導、青色防風ネットの交換等の支援制度の創設を検討する。

６）ビューポイント・滞留拠点の整備

① 道の駅若桜

ＳＬを見ることができジビエが食せるなど、見所や魅力を発信していく。また、ベンチ等の設置や屋外広告物の改修等を検討する。

② 氷ノ山自然ふれあいの里

棚田等のフォトスポットの選定やグリーンシーズンのゲレンデ活用を検討する。

③ 道の駅はっとう

上部の八東総合運動公園への誘導策を検討する。また、屋外広告物の改修等を検討する。

④ 徳丸親水公園

フォトスポットとしての景観資源の活用に向けて、若桜鉄道の愛好家や地域住民等の意見も聞きながら、公園施設や河川内除草等のあり方について検討する。

参 考 資 料

参考資料１

新因幡ライン景観形成行動計画策定委員会による検討経過

令和２年　９月２６日（土） （第１回）	景観とは何かを学ぶ堀繁氏の講演と沿線の「景観診断ワークショップ」を実施し、景観への配慮が必要な要素を抽出（ｐ6-7に記載）
令和２年１１月２０日（金） （第２回）	景観への配慮が必要な要素への対応方針を検討（ｐ8に記載）
令和３年　２月１７日（水） （第３回）	景観資源、ビューポイント・滞留拠点をリストアップし、保全・活用、整備の方向性を検討
令和３年　３月２４日（水） （第４回）	・景観形成に重点的に取り組む区間の検討 ・景観資源等の保全・活用、整備の方針に係るワークショップの実施について検討 ・住民生活に関わりが深く地域貢献意識の高い事業者（コンビニ、金融機関、郵便局等）の広告物の誘導について検討
令和３年　４月３０日（金） （第５回）	景観資源の保全・活用策、ビューポイント・滞留拠点の整備の方針等を考えるための講演（講師：堀繁氏）とワークショップを実施 （ｐ10-11に記載）
令和３年　５月３１日（月） （第６回）	・景観資源の保全・活用策等について、ワークショップにおける意見・アイデア等を踏まえて今後の取り組み方について検討 ・「新因幡ライン景観形成行動計画」（案）の確認

景観診断ワークショップにおける地点ごとの評価

参考資料２

新因幡ライン景観診断ワークショップ（R2.9.26）

	グループ	評価コメント
地点①		
	A	・緑のある所では、ブラウンのガードパイプがなじんでいる。 ・イオン、レッドバロンの看板は一番気になる。折り合いをつけながら、どう変えられるか。 ・青い屋根が目立つ。 ・耕作放棄地が目立つ。
	B	・ここにこの広告がいるのか。 ・青い屋根が目立つ。 ・道路脇の草が多い。草刈りをした方がいい。 ・ミラーは必要か。 ・ガードレールの色がおしゃれな方がいい。八頭ブラウンやうぐいす色。 ・照明柱の色を変えた方がいい。
	C	・看板が派手。 ・青い屋根は塗り替えた方がいい。 ・草刈りをした方がいい。
地点②		
	A	・赤・黄・青の看板。周囲の山や空の色にあったものを色彩的に分析し、明度や彩度を低く調和のとれたまとまりのある看板を目指してほしい。
	B	・電線がごちゃごちゃしており、地中化を考えた方がいい。 ・鉄塔の位置を道路から離すか、色を調和したものにした方がいい。 ・ガードレール、ガードパイプを風景に調和した色にした方がいい。
	C	・電線が多すぎる。 ・看板、情報量が多すぎる。 ・のぼり旗は必要なのか。
	発表者以外	・道路案内標識と看板の情報がかぶっている。 ・看板はレトロ化してはどうか。
地点③		
	A	・ガードバイプは、もう少し薄い色の方がいいのではないか。 ・この場所にこの看板の効果が疑問。
	B	・草で看板が見えていない。草刈りをした方がいい。 ・そもそもこの看板がいるのか。 ・山や川が見えた方がいい。
	C	・空と緑の対比がいいので、電線は埋めた方がいい。 ・ガードパイプの茶色が濃いが、八頭ブラウンは活かさないといけないか。 ・若桜鉄道や川が見えるように草刈りをした方がいい。
	発表者以外	・看板の字が多すぎて読めない。
地点④		
	A	・看板が派手、山の稜線を阻害している。 ・ガードレールは景観になじむ色にした方がいい。
	B	・看板が古く、上の女性はいらない（用呂）。八頭町らしい派手な看板（安井宿）。 ・若桜鉄道が見えるように草刈りをした方がいい。 ・ガードレールを工夫して川が見えるようにすると日本の原風景らしくなる。 ・電柱、ポール、街灯がめざわり。
	C	・看板はいらない。 ・雑草を刈った方がいい。 ・川の景色がいいところ。ガードレールの工夫がほしい。

新因幡ライン景観診断ワークショップ（R2.9.26）

	グループ	評価コメント
地点⑤		
 	D	・電柱・電線が少ない。 ・道路両サイドの雑草、雑木の伐採が必要。 ・ガードレールの色をブラウンなどにしてはどうか。 ・看板の色。周囲に配慮した色にすべき。
	E	・電柱のないいい景色のところ。 ・電光掲示板が残念。移動できないか。 ・公共の看板、低く、シンプルにできないか。 ・国会議員の看板、いいデザインにならないか。
	A	・山がきれいなので活かしたい。 ・看板がいらない。 ・草が気になる ・ガードレールを八頭ブラウンに。 ・大きな電光掲示板が目立つが、災害時には必要かもしれない。
地点⑥		
   	D	・カーブがあり黄色の警告表示がある中で、古紙回収ボックスにも黄色が使われている。 ・果樹園の青いネットは景観に合わない。 ・赤い看板は周りの風景に調和していない。 ・真ん中の写真の木は周りの景観に溶け込んでいていい。
	E	・花御所柿の青いネットは、黒の方がいい。交換に補助金があるといい。 ・バス停がきれいじゃない。開放的な誰でも使える空間にし、周りの景色を楽しめるようにしてはどうか。
	A	・民間のコンテナの色を景観に配慮したものにしてもらえたら。 ・バス停が色あせている。景観に配慮した色にしてはどうか。
地点⑦		
   	D	・のぼり旗がおしゃれじゃない。 ・街路樹は必要か。 ・横断歩道が消えかかっているので思い切って色を変えたりタイル状のものにしてはどうか。
	E	・街路樹は、無い方がいいという意見とフルーツの木にしてはどうかという意見。 ・向かいの田園風景がすごくきれいなので道の駅に見る場所をつくってはどうか。 ・のぼり旗は必要か。
	A	・駐車場の場所に、季節を感じられる外で楽しめるさくらスペースを設けてはどうか。 ・キャラクターなどではなくそういうスペースを見せて誘客しては。
	発表者以外	・のぼり旗部分の植木の手入れができていない。 ・駐車場の場所にウッドデッキを設置してはどうか。 ・向かい側の田園風景が見える場所だけでも電線・電柱をなくすことができないか。
地点⑧		
	D	・ガードレールの色が様々。 ・整然とした風景の中に道路脇の大木が歩道にはみ出ていて違和感がある。
	E	・ガードレールの色がちぐはぐ。 ・山並みがきれいなので、鉄塔の色を配慮してほしい。 ・川と線路を活かせるように工夫ができないか。
	A	・地元の方が育てている花がアクセントになっていい。 ・ガードレールは、道路がカーブしているところであるため、よく損傷し、色がちぐはぐになっているもの。順次、茶色に替えていく予定。（国交省）

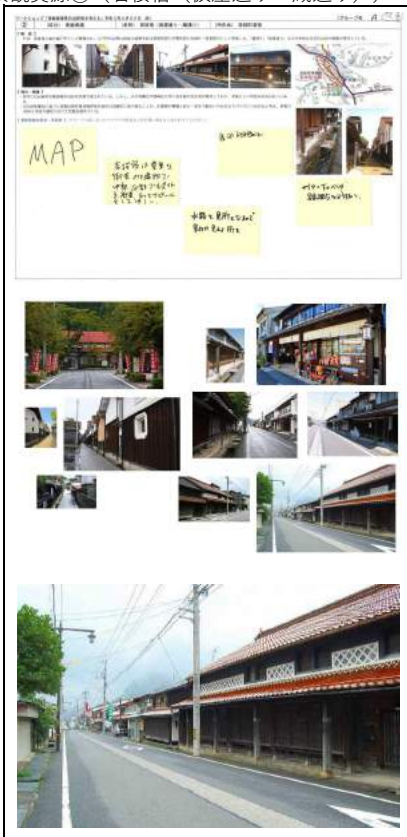
新因幡ライン景観診断ワークショップ（R2.9.26）

	グループ	評価コメント
地点⑨		
	B	・ガードパイプをもう少し周囲と調和したものに。
	C	・電柱・電線の地中化した方がいい。 ・ガードパイプの色を合わせた方がいい。 ・柿畑のオレンジ、景色が映えるように。
	D	・電柱が気になる。 ・ガードパイプの色がちぐはぐ。
	発表者以外	・柿畑の写真が撮れるスポットを設けてはどうか。
地点⑩		
	B	・バス停がもう少し味のあるものになれば。 ・路肩を広げバス停の間口を広く開放的なものにした方がいい。 ・政治家ポスターのある古い建物がどうにかならないか。 ・２種類の看板があるが工夫の余地がある。 ・青いネットが気になる。 ・最近少なくなった電話ボックスがある。
	C	・バス停や奥の古い建物が景観になじまない。 ・看板は、木製のものは少し工夫すればよくなるが、ＪＡの看板はなんとかならないものか。 ・電話ボックスは貴重。残しながら色・デザインを変更して景観になじむようにしてはどうか。
	D	・バス停と奥の建物はトタンが錆びていて建替えた方がいい。 ・同じ場所に看板が密集している。 ・電線が多い。 ・電話ボックスはいらないのでは。
地点⑪		
	B	・青の看板は個人的にはいいと思うが、いらないのではという意見があった。 ・看板の後ろ姿がなさけない。 ・外カーブの位置にある看板、のり面上など改善の余地があるのではないか。
	C	・近景と中景と遠景がそろっていていい景色。 ・看板が見にくい。文字が小さく何が書いてあるかわからない。緑色のものは意味不明。 ・駐車場の看板はもっとはっきりわかりやすく。 ・雑草が目立つ。
	D	・看板が近すぎて情報量が多い。 ・草が生い茂っているので刈った方がいい。
地点⑫		
	B	・カバーの色は目立たせる必要はないのでは。 ・見晴らしがいいので展望台があった方がいいのでは。
	C	・カバーの黄色は色を変えるか、周りにブラウンの策でも設けてはどうか。 ・ガードレールにピンクのテープが見えるがない方がいい。 ・点検用の梯子だけがグレーなのでブラウンに代えた方がいい。 ・景色がいいので歩道や楽しめるスペースがあるといい。
	D	・黄色のカバーを整然とした方がいい。 ・樹枝転換して広葉樹にした方が人が来るのではないか。

ワークショップ「景観資源等の活用を考える」における意見・アイデア等

参考資料３

新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」（R3.4.30）

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
景観資源①（若桜鉄道　各駅舎・施設）		
	A 発表	・隼駅はバイクとの連携が必要ではないか。バイク型のベンチを設置したり、駅をバイクとのつながりを持たせた外観にしてPRする等。 ・隼駅はバイクの聖地として、撮影スポットや休憩スペースを設けてはどうか。 ・若桜駅にも桜があるので、桜と駅が見渡せる場所にベンチを設置してはどうか。 ・若桜駅の新たにできたカフェで、スイーツを提供して若い女性客の取り込みを図ってはどうか。
	B	・若桜駅、若桜宿、道の駅について、相互に人が流れる仕組みづくりが必要。
	C	・若桜駅はどこから見るのがよいのか。駐車場から見やすくすることはできないか。
	D 補足	・若桜鉄道を訪れる人は登録文化財である各駅舎の写真を撮りたい。汽車に乗ってしまうと、各駅舎を撮るのは難しい。レンタカー、レンタサイクル、各駅を回るためのシステムが必要。 ・１時間に１本の汽車に乗って来て帰って終わりでは、滞留時間が確保できず、お金が落ちない。 ・因幡船岡駅、駅のホームや車両から見下ろせる田んぼがあり田んぼアートを見て楽しめるようにしてはどうか。（カントリーエレベーター南側） ・鯉のぼりを各駅で飾ろうとしているが、すべて徳丸ドンドに掲げて、車内からの景観を楽しんでもらうのもよいのではないか。汽車に乗っている人が楽しめる工夫をすれば、旅客が増えるのではないか。 ・隼駅、一人旅のライダーも多く、自分を入れた写真が取りにくい。カメラ台で、ライダーをおもてなししてはどうか。浦富海岸などにある。
	E	・若桜駅を眺める場所がない。 ・お金の落ちる仕組みづくりが必要。 ・ＰＲ等に沿線の桜スポットが活用できないか。
	F 補足	・町外の方、県外の方向けに、ビューポイントマップがあるといいのではないか。 ・国道から各駅舎への入口が分かりづらく、何か表示がほしい。 ・各駅を使ったイベントを開催してはどうか。 ・若桜駅内の桜の周辺にベンチを設置してはどうか。
	堀先生	・利用者の立場になって丁寧に考えることが大事。わずかな時間でも駅に寄った証に写真が取れるような工夫等。 ・サービス一辺倒では長続きしない。客が気持ちよくお金を落とすこととセットで考える必要あり。
	温子氏	鉄道愛好家はおしなべて鉄道以外にお金を使わない。鉄道愛好家やライダーのためだけという具合に初めから間口を狭くするのではなく、いろんな方をターゲットにすることを考えたほうがいい。
景観資源②（若桜宿（仮屋通り・蔵通り））		
	A 発表	・マップはあるようだが、マップを受け取れる場所をわかりやすくPRすべき。 ・貴重な建物、まち並みがあるのでもっとアピールすべき。 ・水路も見所の一つ、ＰＲポイントではないか。 ・宿泊施設を整備して滞留時間を確保してはどうか。
	B	・まち巡りの順序、どう歩いたら楽しいかが分かるといいのではないか。 ・水路の水を引き込んで鯉を泳がせ、それを鑑賞できるようにしてはどうか。
	C	・空き家の活用を検討する必要がある。 ・仮屋通り、蔵通りにベンチを置いてはどうか。 ・仮屋通りを石畳で整備してはどうか。
	D 補足	・蔵通りの蔵の中をみることができない。ベンチや滞留ポイントない。寺もありおもしろそうだが、入りづらい雰囲気で、通り抜けてしまう。蔵を開放して見てもらう等の工夫が必要。 ・仮屋通り、建て替えが進んでおり、仮屋がとぎれとぎれになっている。復元して、冬の楽しみ方として、仮屋を体験できるようにしてはどうか。 ・電柱が目立っている。
	E	・景観条例を設けて規制してはどうか。
	F	・ベンチを置いてはどうか。 ・レンタサイクルがあるようだが利用されていない。 ・電線を地中化してはどうか。
	堀先生	（若桜町から） 仮屋に設置しているベンチの目の前が水路で稀に落ちる方がいる。景観への配慮と安全面の配慮の両立はどのようにしたらよいか。 ⇒人を丁寧にもてなすメッセージが伝わると評価される。落ちてもかまわないというメッセージが出ているとマイナス。落ちないように工夫しているというメッセージが伝わることが基本。例えばベンチの前は水路にふたをかける。地域の人が来訪者になったつもりで歩いてみて、危ないところは工夫する丁寧さが必要。
	温子氏	軒を復元するだけでなく、集客を積極的に考えていくことがいいのではないか。

新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」（R3.4.30）

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
景観資源③（安井宿）		
	A	・すべて同じ景色で景観ポイントがない。 ・ビューポイントを設けてはどうか。
	B 発表	・お金が落ちる仕組（食事、休憩場所）がない。空き家を活用し、ゲストハウスなどを作ってみてはどうか。
	C 補足	・食事ができるところがないので、空き家をリノベーションしてカフェなどにしてはどうか。 ・駐車場、マップがない。 ・魅力を発信しておらず、由来もわからない。
	D 補足	・地域の人が価値に気づいていないので、魅力を知ってもらうためにワークショップなどを開催してはどうか。地域の人の意識が変われば、空き家の活用などにつながるのではないか。
	E 補足	・あまり知られていない箇所であり、はじめから単独での活用は難しいのではないか。他の何かに関連付けて、その一部として捉えては。例えば、町内にいくつかある波うさぎ（の彫刻）の一つがここにもあるとか。 ・農家に１００円市を開いてもらってはどうか。
	F	・道が狭く、景観ポイントを設定できない。 ・空き家や元郵便局を休憩場などに利用してはどうか。 ・最寄駅から徒歩で行けるようにバスルートを作ったらどうか。 ・案内ができる地元の人に協力いただいてはどうか。
	堀先生	地域の人の意識づけ、価値の再認識のためのワークショップ開催は賛成。それ以上に、ここで暮らしたいが収入減がないとか、維持管理費が確保できないといった若い人、困っている人を対象とした相談会を開催するべき。今は居住地で観光地ではないが、いずれ必要となる維持管理費は来訪者から得るしかない。早急に手を打つべき。ワークショップを兼ねた相談会を開催してほしい。
	温子氏	なし
景観資源④（花御所柿の柿畑）		
	A	・景観ポイントがないのでベンチや駐車スペースが必要。 ・「物産館みかど」の看板が景観に合わないので考えてほしい。
	B 発表	・ビューポイントがない。 ・沿線に集めて植えているわけではないので、行政が誘導しては。 ・青色ネットが景観を阻害している。老朽化しているものを交換するだけでも景観が改善されるのではないか。
	C 補足	・ビューポイントがない。 ・「物産館みかど」のトイレが古い、敷地内にベンチがない。
	D	・柿畑を見ることができる場所を設けてはどうか。 ・柿畑の青いネットは黒等にしたほうがいい。
	E	・「物産館みかど」の周りにも柿畑だったらいい景観になると思う土地がある。時間はかかるが農地管理も考えてみてはどうか。 ・「物産館みかど」の敷地内に櫓を立てて、ビューポイントとしてはどうか。
	F	・ネットの改良や色を統一することを考えてはどうか。 ・ビューポイントを作ってはどうか。 ・「物産館みかど」で試食販売をしてはどうか。また展望台があるといい。 ・１００円市を開催してはどうか。
	堀先生	より収入が上がる方法で整備していけばよい。
	温子氏	ネットの色について、青色なのは経済的な理由か。ネット自体が景観を阻害しているので色は問題ではないと考える。ネットは目をつむって柿畑の全体的な景観を考えて、収入が増える方法を考えて行くべきではないか。

新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」（R3.4.30）

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
景観資源⑤（若桜鬼ヶ城跡）		
	A	なし
	B	・探検して楽しめるようにしてはどうか。
	C	・古城カードを作ってはどうか。 ・ベンチを置いてはどうか。
	D 補足	・途中の道が悪く、大きな枝が落ちていたり、アスファルトがはがれている。崩れている箇所もある。 ・くま注意の看板や電柵があり一人で行くのは怖い。天守閣に行くには勇気がいるが景色はすごくいい。 ・上からみると、中国地方に侵入してくる軍勢を監視するための出城としての機能があったことがよくわかる。破城令を受け人為的に壊したという歴史があり、その時の状態が残っている珍しい城跡。きれいに整備するのではなく、その歴史がわかるような状態のまま散策しやすくするのが望ましい。 ・草刈りや雑木の伐採作業を定期的にしたほうがよい。
	E 発表	・景色の良さが地元の人にも伝わっていない。登ってみて体感して知ってもらう取り組みが必要。季節により異なる景色、紅葉、美しい山の稜線など、魅力が伝わるよう写真や動画で発信していくべき。 ・ハイカーやトレッキング愛好者をターゲットにしてはどうか。
	F	・道が荒れており、まず行くことができるよう整備したほうがいい。 ・歴史だけでなく自然に関するガイドも必要。 ・登山口が分かりづらい。
	堀先生	眺望がすばらしいということだが、整備にはかなりコストがかかりそう。コストに見合うだけのお金が地域に落ちるか難しい箇所。今、観光庁、総務省がコロナに関連して地域の資源を使って観光を創る事業などに、充当率100％の補助金を設けている。そういうものに手を挙げて、活用できれば。
	温子氏	役場と地元が協力しないと国の補助金は難しい。
ビューポイント・滞留拠点⑥（道の駅若桜「桜ん坊」）		
	A 補足	・トイレとお土産以外で滞在する見所やその案内が必要。 ・SLが見えることをPRしてはどうか。 ・スポットが必要。 ・道の駅に若者向け商品が少ない。
	B	・SLを眺めることができる。 ・入場券とサービスをセットで提供してはどうか。 ・道の駅からも若桜鉄道に入れるように整備してはどうか。
	C 発表	・若桜鉄道に隣接しているのにアクセスが悪い。 ・SLがあるが、簡単に見られない。気軽に見えるようにした方がよい。 ・ジビエの打ち出しが少ない。駐車場スペースでジビエを売るなどしてはどうか。 ・道の駅から山を見るスポットがない。道の駅で買った物を山を眺めながら食べることができるようなベンチやくつろげるスペースを設けてはどうか。
	D	・道の駅と若桜駅のアクセスが悪い。往来できるように整備してはどうか。
	E	・若桜駅前へのアクセスを改善すべき。 ・ドックランを設けてはどうか。
	F	・若桜駅まで近道があるといい。
	堀先生	SLがうまく使えてない等意見があったが、これは工夫する余地があり伸び代がたくさんあるということ。是非とも皆様と丁寧に検討していきたい。
	温子氏	人は、人が楽しく過ごす姿を見て行ってみたいと思う。そういう景色を出していければ良いのではと思う。

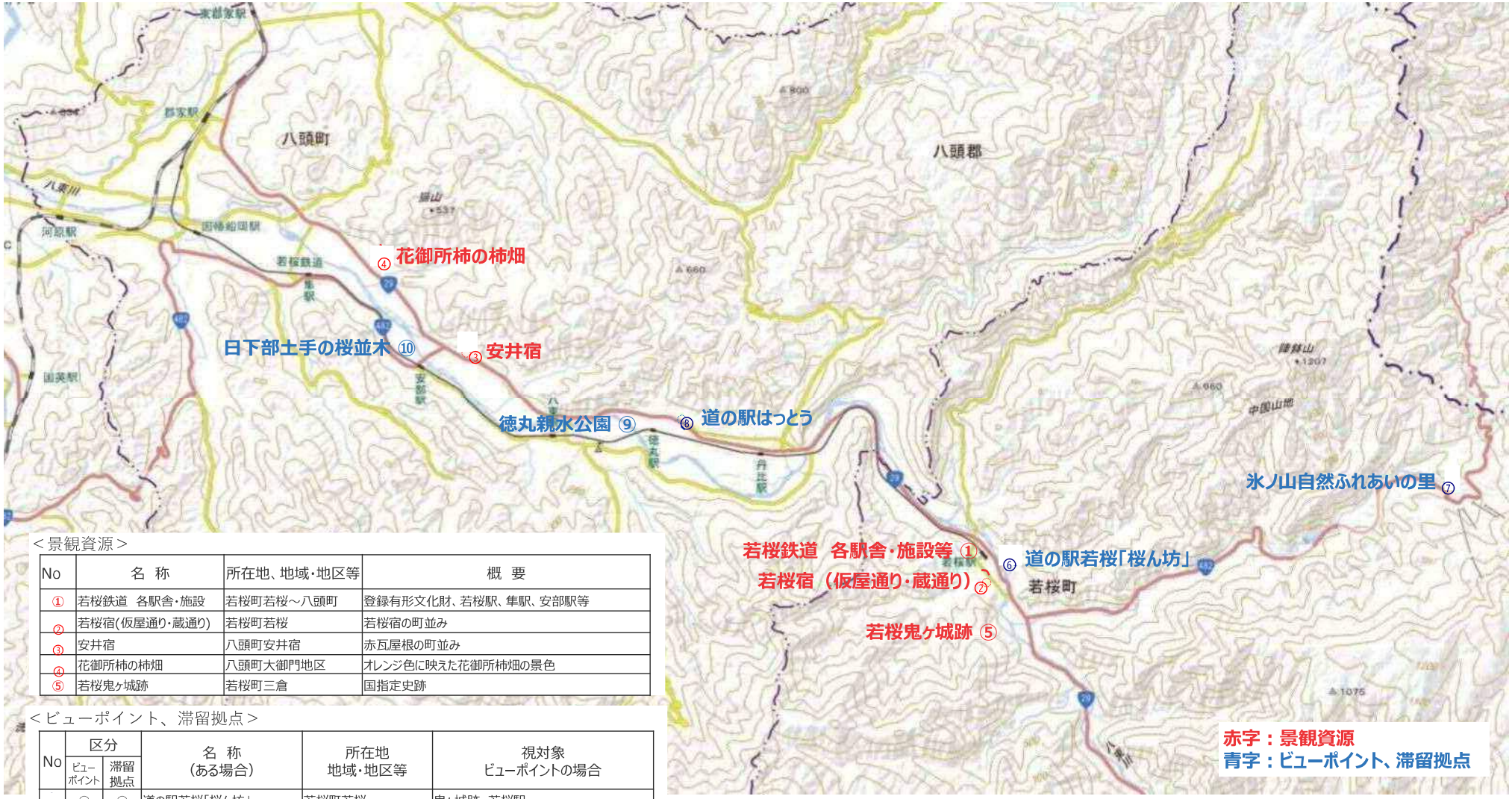
新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」（R3.4.30）

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
ビューポイント・滞留拠点⑦（氷ノ山自然ふれあいの里）		
	A 補足	・氷太くんのPRが少なく一般の方に浸透していないのではないか。 ・建物のカラーコーディネートを考えるべき。 ・つくよね棚田のビューポイントの看板を周囲に調和するデザインにした方がよい。
	B 補足	・木が邪魔で棚田が見えづらいので整備が必要。 ・耕作放棄地があり棚田景観の維持が難しくなっている。 ・棚田米をブランド化し均質な品質で売り出すよう農家の意思統一をはかりビジネス化し景観を維持していくことが大切ではないか。
	C 発表	・グランピングの施設を整備し自然の景観を活用した取り組みを行ってはどうか。 ・耕作費用を負担すればお米がもらえるようなオーナー制度を設けて、耕作放棄地対策としてはどうか。
	D	・ネイチャーガイドで生計を立てられるようにすべき。 ・棚田が雑木に遮られていて見えない。
	E	・トイレやサウナを整備してはどうか。
	F	・ゲレンデの頂上にベンチを設置してはどうか。（頂上は私有地） ・氷太くんで、ビューポイントの案内をしてはどうか。 ・休耕田が増えている。お米のオーナー制を導入してはどうか。 ・響の森のPRが不足しているのではないか。 ・兵庫県との連携が重要ではないか。
	堀先生	・ビジネスの成立という意識と観点は極めて重要。 ・持ち出しばかりで長続きしない、サービスを提供する対価としてお金を落としてもらうことが大切。 ・滞留拠点は飲食の提供が不可欠。（より魅力が増す＝よりお金が落ちる） ・景観を良くした場所でお金を落とす仕組みづくりを同時に考えていき、お金を落とさないと判断できるところは優先順位を下げてよい。
	温子氏	なし
ビューポイント・滞留拠点⑧（道の駅はっとう）		
	A	・食べに行きたくなるフルーツパフェを売りにしてはどうか。 ・建物・看板のイメージの統一や色彩のコーディネイトを検討すべき。 ・フルーツのキャラクターは、和風の建物に合う色合い・デザインに変更した方がよい。
	B	・暗い。 ・中が見えないため、受け入れてもらえない。
	C	・フルーツがない時期のアピールをどのように行うか課題。 ・果物がすぐ食べられない。フルーツの試食があればいい。 ・運動公園のアピールがない。
	D 発表	・植栽スペースが使われていないし、汚い。ここに滞留スペースを作ればよいのではないか。 ・道路に面した部分は、芝生にしてはどうか。 ・公園に上がると眺めが良いが、公園への誘導・リンクができていない。 ・公園の中にも人が滞留するようなポイントを改めて整備する必要があるのではないか。
	E 補足	・バイカーへのおもてなしが必要。 ・なにか若桜鉄道とのコラボできないか。 ・教育委員会と連携が不足しているのではないか。管理者を統一し、一括管理したほうが、桜の見える場所への誘導やイベントの実施が有効に行えるのではないか。
	F	・コンテンツが不足している。
	堀先生	施設の前面を魅力的にする必要がある。植栽が生きていない。改善の余地あり。滞在時間を延ばすと売り上げが上がることが知られている。休憩スペースを作るのがポイント。一括管理の話があったが、上の斜面を取り込んでいかに道の駅の魅力にするかが大きなテーマと言える。
	温子氏	低木の植栽の場所を芝生にという話があったが、整備や管理にはお金がかかる。お金を埋めることをしていかないと続いていかない。そういった観点も考えてほしい。

新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」（R3.4.30）

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
ビューポイント・滞留拠点⑨（徳丸親水公園）		
	A	・名称を「ドンド公園」とした方がインパクトがある。 ・鉄橋とドンドが見えるポイントにベンチを設けてはどうか。 ・川遊びができるように整備したほうがいい。 ・コンビニ跡地と合わせて、ビューポイント等として再開発してはどうか。
	B	・コンビニ跡地の活用を検討してはどうか。 ・サイクリングロードにしてはどうか。 ・花壇は要らない。管理に手間や費用がかかる。
	C	なし
	D 発表	・景観が非常にいいが、東屋等の場所からはそう見えるわけではない。ビューポイントとして改めて整備してはどうか。 ・現在、草が多い茂っており、まったく遊べない。滝の部分も、台風で削れてしまい形状が変化している。 ・鯉のぼりを泳がせてはどうか。 ・コンビニ跡地が廃墟のよう。ここからの眺めはどうなのか。
	E 補足	・この場所に若桜鉄道のビューポイントマップや看板があるといいのではないか。 ・ベンチや東屋が老朽化している。 ・コンビニ跡地の利活用が課題。公園の駐車場にしてはどうか。
	F	・河川整備や草刈りが必要。 ・駐車場が狭い。 ・トイレが古い。 ・コンビニ跡地が活用できないか。道の駅のようにしてはどうか。
	堀先生	ポテンシャルは高いが、手が付けられていないし、きちんと検討されていない。丁寧な検討が必要不可欠。魅力のないところはない。磨き切れていないから。丁寧にやれば魅力がでる。
	温子氏	なし
ビューポイント・滞留拠点⑩（日下部土手の桜並木）		
	A	・屋台や駐車場があるといい。 ・トイレの整備が必要。 ・ベンチがほしい。
	B	・屋台を出してはどうか、お金を落とす仕組みづくりが必要。
	C	・桜の里親制度を設けてはどうか。 ・ワゴン売店を誘致してはどうか（売上10％を徴収）。 ・ベンチを設置してはどうか。
	D	なし
	E 発表	・どこから見るのが一番いいのか、近くで見えるところはどこか、提示して、写真を撮ってもらう工夫が必要。 ・ポスターやイベント、撮影スポットという商材として使っていくことも考えるべき。
	F	・ベンチがあったらいい。 ・駅周辺に店がほしい。 ・夜間ライトアップで人が来るが、ごみを捨てて帰る人がいる。
	堀先生	ソメイヨシノの寿命は60年。同時期に枯れる。今から更新を計画していかないと名所がダメになる。
	温子氏	なし
総括		
	堀先生	地域の資源を活用することを考えてもらったが、なかなかこういう機会はない。考えていかないと地域はよくならない。今日をきっかけに、全部は難しい、とっかかりとして一つでも二つでも小さな整備を検討していただきたい。大事なのは整備に係るお金より知恵、丁寧にやること。雑にやるといくらお金を突っ込んでも効果は出ない。地元を巻き込んで、丁寧に検討を。ポテンシャルは高い。それが魅力になるかは別の話。魅力をつけないと客にとっては価値がない。

位 置 図



＜景観資源＞

No	名　称	所在地、地域・地区等	概　要
①	若桜鉄道　各駅舎・施設	若桜町若桜～八頭町	登録有形文化財、若桜駅、隼駅、安部駅等
②	若桜宿(仮屋通り・蔵通り)	若桜町若桜	若桜宿の町並み
③	安井宿	八頭町安井宿	赤瓦屋根の町並み
④	花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
⑤	若桜鬼ヶ城跡	若桜町三倉	国指定史跡

＜ビューポイント、滞留拠点＞

No	区分		名　称 （ある場合）	所在地 地域・地区等	視対象 ビューポイントの場合
	ビューポイント	滞留拠点			
⑥	○	○	道の駅若桜「桜ん坊」	若桜町若桜	鬼ヶ城跡、若桜駅
⑦	○	○	氷ノ山自然ふれあいの里	若桜町つく米	棚田、氷ノ山などの山なみ
⑧	○	○	道の駅はっとう	八頭町徳丸	向かいの田園風景、遠見山
⑨	○	○	徳丸親水公園	八頭町徳丸	自然と若鉄車両の風景 徳丸ドンド、若桜鉄道第二八東川橋梁
⑩	○		日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

①	（区分）　景観資源	（名称）　若桜鉄道　各駅舎・施設	（所在地）　若桜町若桜～八頭町郡家

【 概　要 】

・昭和５年に旧国鉄若桜線として運営が始まり、昭和 62 年に沿線の若桜町・八頭町等が出資する第３セクター若桜鉄道（株）が運営を引き継ぎ、今日に至る。若桜駅～郡家駅の延長 19.2ｋｍの路線。
・平成 20 年に全国ではじめて沿線全体の施設（若桜・丹比・八東・安部・隼・因幡船岡の駅舎と橋梁や転車台等）が国の有形文化財に登録され、貴重な地域の歴史的遺産として注目されている。
・観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」が走り、木造のレトロな駅舎や沿線の徳丸ドンドと鉄橋などの懐かしい風景を走り抜け、笑顔と笑いが生まれる新しく懐かしい鉄道の旅を演出する。

【 現状・課題 】

平成 30 年３月の観光列車「昭和号」の運行を契機に、駅舎・施設を含めたトータルデザインとして、同年から令和２年度にかけて各駅舎のレトロ化を進め、歴史のある駅舎などの関連施設は地域資源や観光資源としての価値を高め、町外から人を呼び込むツールとして重要性が増してきている。今後は、３台の観光列車や八東駅行き違い施設整備を活用した列車増便による利便性を活用し、乗って楽しんでいただくだけではなく、降りても楽しめる仕掛けづくりが課題となっている。

若桜駅（若桜町若桜）

若桜鉄道終着駅。構内には駅本屋をはじめプラットホーム、手動式転車台や給水塔など昭和５年開通当時の設備が良好な状態で残されている。令和元年度に著名な工業デザイナー水戸岡鋭治氏のデザインによる駅舎改修を行い、駅舎内にカフェを設置した。

隼駅（八頭町見槻）

・駅名にちなんで、スズキの大型バイク「隼」の愛好家等（隼ライダー）の「聖地」となっている。毎年、８月第１日曜日に「隼駅まつり」が開催され、全国各地から 2,000 台余りのバイクが集結する。
・３月中旬から 12 月上旬にかけて、駅内ショップ「把委駆」（ばいく）が土日祝日に開店する。

安部駅（八頭町日下部）

・真っ直ぐに伸びる線路の景観が素晴らしく「男はつらいよ」のロケ地になった駅。近隣集落の住民に配慮して入口は２か所に設けられている。
・昔ながらの木製切符売り場や改札は当時のまま現存している。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

【登録有形文化財】

①

③

⑨

㉑

安部駅
④

⑤

⑭

⑬

⑫

ひがしこおげ
こおげ
大樹寺
(ウラクツバキ)
② 因幡船岡駅本屋
及びプラットホーム
③ 隼駅本屋及びプラットホーム
④ 安部駅本屋
⑤ 安部駅プラットホーム
八頭町
⑩ 丹比駅本屋及びプラットホーム
⑪ 細見川橋梁
やず
こうこう
まえ
河原城
河原IC（仮称）
いなば
ふなおか
かわはら
① 第一八東川橋梁
船岡
美人温泉
はやぶさ
物産館
みかど
あく
船岡竹林公園
くにふさ
482
たかがり
道の駅
はっとう
(フルーツ総合
センター)
とくまる
⑥ 八東駅本屋
⑦ 八東駅プラットホーム
はっとう
八東りんご
観光園
たんび
⑧ 岩淵川橋梁
⑨ 第二八東川橋梁
⑫ 第三八東川橋梁
矢部家
住宅
⑬ 落石覆
⑭ 雪覆
⑮ 若桜川橋梁
若桜鉄道
わかさ
若桜郷土文化の里
若桜ゆはら温泉
ふれあいの湯
蔵通り・カリヤ通り
鬼ヶ城跡
若桜弁財天
(江嶋神社)
29
若桜町
⑯ 若桜駅本屋
及びプラットホーム
⑰ 物置及び灯室
⑱ 旧西転轍手箱番所
⑲ 旧東転轍手箱番所
⑳ 諸車庫
㉑ 機関車転車台
㉒ 給水塔
㉓ 流雪溝

②	（区分）　景観資源	（名称）　若桜宿（仮屋通り・蔵通り）	（所在地）　若桜町若桜

【 概　要 】

中世、若桜鬼ヶ城の城下町として整備され、江戸時代以降は鳥取と姫路を結ぶ若桜街道と伊勢街道の宿場町・商業都市として発展した。「蔵通り」「仮屋通り」などの特色ある近代以前の建築が現存している。

【 現状・課題 】

・宿内には伝統的な建造物が良好な状態で残されている。しかし、少子高齢化や過疎化に伴い空き家や空き地が増加しており、若桜らしい町並みが失われつつある。

・文化財保護法に基づく重要伝統的建造物群保存地区の国選定に取り組むことが、住環境の整備と安心・安全で賑わいのあるまちづくりにつながると考え、事業の周知と地区の選定に向けた活動を進めている。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

桜井天大祭

若桜宿

③	（区分）　景観資源	（名称）　安井宿	（所在地）　八頭町安井宿

【 概　要 】
・若桜往来の宿駅に指定された宿場町。
・安井宿内にはかつての若桜往来沿いに赤瓦の家並みが続き、宿の中ほどにはかつての郵便局だった近代建築が残る。さらに進むと愛宕神社の石段下には「右 いせ道／左 やま道」と印された石道標があり、宿場町の風情が残る町並みである。

石道標

【 現状・課題 】
・昔ながらの古民家が残っている一方で、一般的なデザインの家屋も建築されている。
・少子高齢化や、過疎化に伴い、空き家や空き地が増加しているうえ、保全が行き届かないため、景観に悪影響を及ぼしている。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

④	（区分）　景観資源	（名称）　花御所柿の柿畑	（所在地）　八頭町大御門地区

【 概　要 】

花御所柿の一大生産地である「大御門地区」を縦断する国道 29 号沿いには、昔から脈々と栽培が受け継がれている花御所柿畑が広がり、晩秋には柿畑が一面にオレンジ色に染まった景色を見ることができる。

【 現状・課題 】

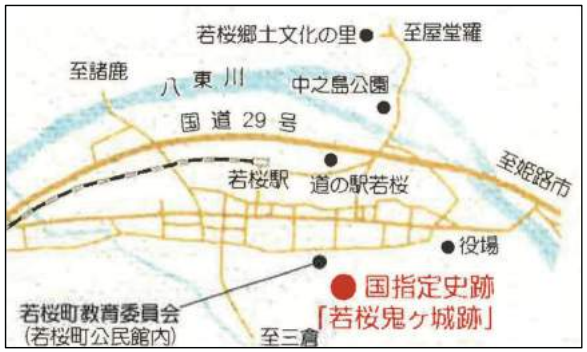
・柿畑にある青色のあるいは老朽化した防風ネットが景観を損なっている。
・鳥取いなば農協の直売所「物産館みかど」前や道の駅はっとう前などに広がる柿畑の風景が、ガードレールや電柱等に阻害されている。
・後継者不足により、田畑や果樹園の耕作放棄地や放置果樹が多くなっている。
・沿線は平坦な地形で展望台もなく柿畑を一望することが出来ない。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

⑤	（区分）　景観資源	（名称）　若桜鬼ヶ城跡	（所在地）　若桜町三倉

【 概　要 】

若桜鬼ヶ城は若桜の町を眼下に望む標高 452mの鶴尾山の山頂部から兵陵尾根上に郭郡を配し、本丸、二の丸、三の丸、ホオズキ段、六角石垣など全てが高石垣で築かれていた。元和３年（１６１７年）に一国一城令によって廃城となり、およそ 400 年経った現在に破城の歴史を伝えている。全国的に珍しい造りの虎口があることなどから、平成２０年３月に国史跡に指定された。



【 現状・課題 】

続日本百名城に選ばれており、旅行社のバスツアーが組まれるなど、近年来城客が増加傾向にある。ガイド付き散策や御城印も人気。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

⑥	（区分）ビューポイント・滞留拠点	（名称）　道の駅若桜「桜ん坊」	（所在地）　若桜町若桜

【 概　要 】

鉄道終着駅に隣接する全国的にも珍しい道の駅で駅構内にあるＳＬ車両を眺めることができる。売店は、地元産品の販売拠点となっており、自然豊かな地元の野菜・米に加え、ジビエ加工品やその他特産品が充実している。また、食堂では地元産のジビエを利用した料理が好評。新緑に紅葉、山遊び川遊びと通年を楽しめる若桜の拠点となっている。

開設日：平成 20 年６月１日
運営者：若桜町観光開発事業団（指定管理者制度）

【 現状・課題 】

・看板、幟旗、装飾等のデザインが洗練されていない。
・若桜駅や駅前とのアクセスが不便で、経済効果を十分に発揮しきれていない。

【 滞留拠点等の整備・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

⑦	（区分）ビューポイント・滞留拠点	（名称）　氷ノ山自然ふれあいの里	（所在地）　若桜町つく米

【 概　要 】

若桜町春米の氷ノ山山麓エリアは「わかさ氷ノ山自然ふれあいの里」と称され、雄大な自然をフィールドにした登山やトレッキングをはじめ、スキー場やキャンプ場、氷ノ山自然ふれあい館「響の森」などの施設があり、表情豊かな四季の景観とあわせて年間を通してレクリエーションを楽しむことができる。また「日本の棚田百選」にも選ばれた美しい「つくよね棚田」の景観を楽しむことができる。

＜氷ノ山＞

大山に次いで中国地方で二番目に高い山（標高 1,510m）。氷ノ山後山那岐山国定公園の主峰を成し「母なる森」とも称されるブナの自然林や高山植物、天然記念物のイヌワシやヤマセミなど様々な動植物が生息している。

＜つくよね棚田＞

標高 800mの場所に位置し、農地の少ない山地を切り開らかれた棚田は、訪れる人々の心を和ませる風景となっている。戦国時代から江戸時代にかけて造られたもので、畦畔（けいはん）の多くは下流の谷から運び上げた雑石により一度崩壊すれば決して復元できないような見事な石積みが施されている。

【 現状・課題 】

・グリーンシーズンのゲレンデ活用が課題となっている。
・棚田の中に耕作放棄区画があり、景観の悪化が懸念されている。

【 滞留拠点等の整備・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

氷太くん
氷ノ山天空のリゾート
氷太くん
４８２号
テニスコート
せせらぎふれあい
広場
氷ノ山自然
ふれあい館
智の森
わかさ氷ノ山キャンプ場
わかさ氷ノ山自然ふれあいの里
つくよね棚田の
ビューポイント
大字つく米
大字つく米
つく米川
大字つく米
R3.4現在、手前の木々で遮られている。
つくよね棚田
４８２号
↓スキー場

⑧	（区分）ビューポイント・滞留拠点	（名称）　道の駅はっとう	（所在地）　八頭町徳丸

【 概　要 】

・情報発信センターである道の駅（国土交通省管轄）に、地元のフルーツ中心に野菜や加工品などの特産品等を取り扱っている直売所「八東フルーツ総合センター」（町営）が併設されている。店内には喫茶店もあり、地元や県内外の人で賑わっている。（年間３万人程度の入込客数）
・道の駅前面には田園風景が広がり、近くには、梨、リンゴ、ブドウ等を栽培するフルーツ観光園がある。また、若桜鉄道列車を見ながら八東地域を代表する山「遠見山」を眺めることが出来る。
・道の駅から上方に階段を上ると八東総合運動公園が整備されており運動ができるほか、春には桜が咲くなど、散策にもおすすめのスポット。公園からは遠見山などの眺めがよい。

開設日：平成８年４月１日
運営者：八東地域振興（株）（指定管理者）

【 現状・課題 】

・公園からの眺めでは電線等がそこまで邪魔にならず、眺望がよい。
・道の駅から田園や遠見山側を観ると電柱や電線が目立つ。
・のぼり旗や看板、キャラクターのモニュメント等のデザインが洗練されていない。

【 滞留拠点等の整備・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

道の駅はっとう
情報コーナー、駐車場、テラスなど
改修・新設のお知らせ

令和2年8月に国土交通省と八頭町で道の駅はっとうの各施設リニューアル工事(新設や改修)を行いました。このパンフレットでは、リニューアル工事の内容をご紹介します。

駐車場を改修しました！

一部工事中

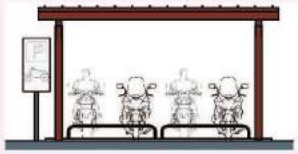
【屋根付き多目的駐車場】(自動車2台分)
- 体が不自由なかた、障害をもつ方、妊産婦の方などが使用する屋根付きの駐車区画を新設し、雨の日でも安心して利用できるようになりました。

【屋根付き駐輪場】(バイク4台分)
- 屋根付きのバイク用駐輪場を新設しました。

【駐車場区画の変更】※今後整備予定
- 駐車場の区画を、駐車しやすいように変更します。
- 歩行者用通路を着色・明確化し、歩行時の安全性を高めます。

【新設】屋根付き多目的駐車場

【新設】屋根付き駐輪場



※実際の色とは異なります。

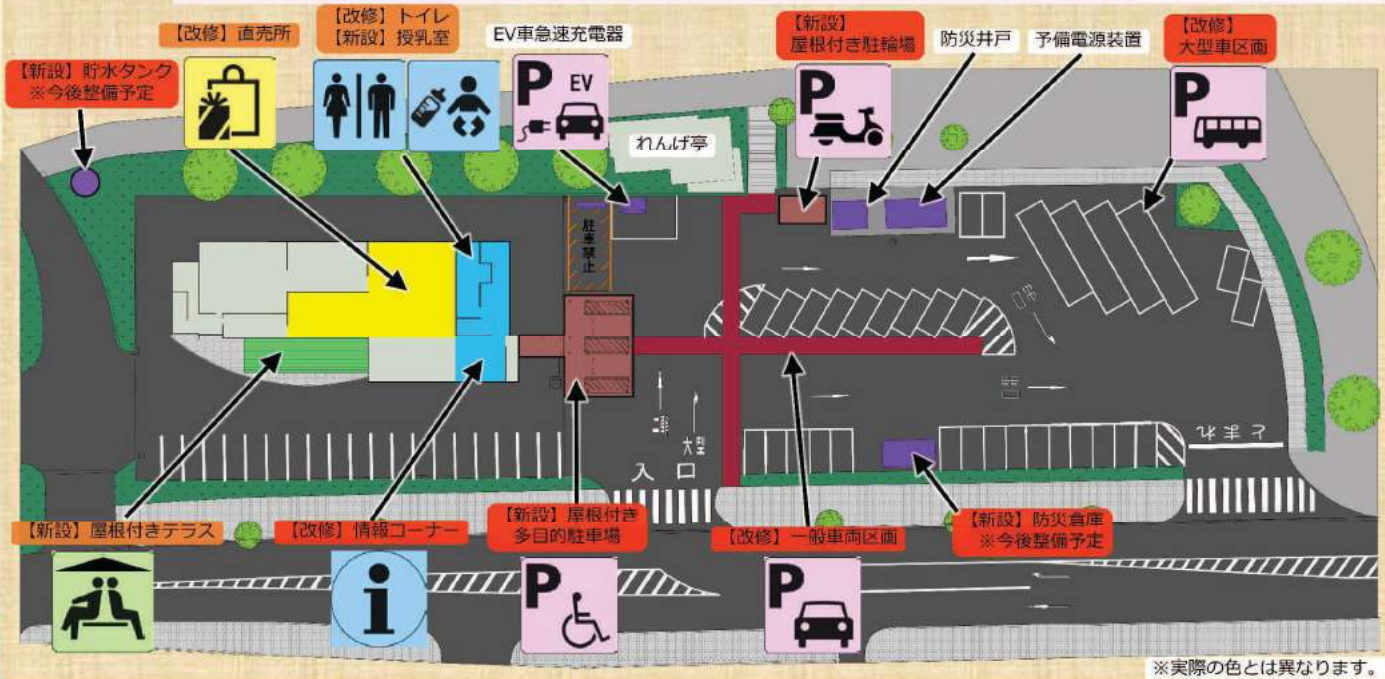
直売所を改修しました！

- 直売所の床を張り替えて、室内が明るくなり新鮮な野菜や果物が見やすくなりました。

テラスを新設しました！

- フルーツ総合センターの玄関ポーチに屋根付きのテラスを新設しました。
- このテラスは、屋外の屋根付きスペースとして、休憩スペースやイベント開催場所とするなど、多様な利活用を考えています。

テラス活用の様子(ミニコンサート)



※実際の色とは異なります。

情報コーナーを改修しました！

トイレを改修したほか、授乳室を新設しました！

【情報コーナー】
- 古くなっていた情報コーナーの内装・機能を改修しました。
- パンレット台や大型情報モニターの配置により、情報発信機能を向上させました。
- また、車椅子でも使用できる公衆電話の配置や、災害時の電源(携帯電話の充電など)を配置するなど、多様な機能を確保しました。

【トイレの改修・授乳室の新設】
- トイレを洋式化し、利便性を向上させました。
- 授乳室を新設し、1層シンクと2口コンセント、ベビーベット、椅子を備え付けました。

～情報コーナー南面の設備をご紹介します～

※実際の色とは異なります。

車椅子でも使用できる公衆電話
パンフレット台には、車椅子でも使用できる公衆電話を配置しました。

55型液晶モニター(4K仕様!!)
道路ライブカメラ情報や道路規制情報などをお知らせします。

※イメージ図です。

災害時用携帯電話充電用タップを格納!!
緊急時に使用できる携帯電話等の充電タップを格納しています。通常コンセントを8口、USBコンセントを4口確保しました。

⑨	（区分）ビューポイント・滞留拠点	（名称）　徳丸親水公園	（所在地）　八頭町徳丸

【 概　要 】

千代川水系最大の支流一級河川八東川の徳丸地内にある河川公園（県所有、町管理）。公園内には駐車場・東屋が整備されている。若桜鉄道八東川第２橋梁と徳丸ドンドの両方を同時に見ることができるため、町内有数の写真撮影スポットとして知られる。

また、地元の人の休憩場所や絵画教室のデッサン場所等として利用されている。

３月末から４月上旬にかけては桜が満開になり４月中旬から下旬にかけては枝垂桜が見頃を迎える。

＜徳丸ドンド＞

・八東川の河川内にある弧を描くような自然滝。広い河原から近傍の山々も同時に眺めることがでる。

・一面が亀の甲形の平石になっているところがあり、幅約 72 メートル、上下約 1.6 メートルの高さがある。

・川水が岩面一面を「ドンドン」と音を立てて滝のように流れることから、「徳丸ドンド」という名前がついたと言われている。

【 現状・課題 】

・近年の豪雨災害等により、亀甲型の平石部分に行く途中に土砂が堆積し、雑草が生い茂って容易にドンドに近づくことが出来ない状況になっている。

・ドンドを流れる水量はその年の気候や積雪等により左右されるが、近年減少傾向にある。

・若桜鉄道愛好家等にはよく知られるスポットであるが、広く一般に知られているわけではない。滞留拠点としてのポテンシャルを有しているが、周囲に経済効果を生む施設等はない。

【 滞留拠点等の整備・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

①

②

③

⑩

八東川　徳丸親水公園
コンビニ跡地
八東川
八東川
482
29
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
凡例
県から八頭町に管理を委託
：管理委託対象範囲
徳丸ビンド
Google

⑦

④

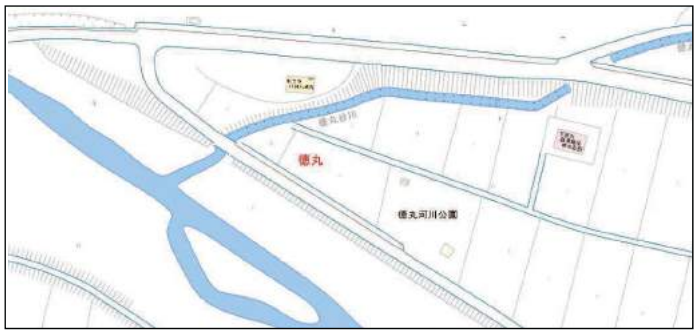
⑤

⑥

⑪

⑨

⑧
Google


徳丸
徳丸河川公園

⑩	（区分）ビューポイント	（名称）　日下部土手の桜並木	（所在地）　八頭町日下部

【 概　要 】
・安部駅から徒歩約５分の場所に続く桜並木。
・桜の季節になると、地元集落による夜間ライトアップも行われ、多くの人が訪れ、写真撮影スポットとなっている。
・映画「男はつらいよ」撮影地となったことから発足した、上日下部寅の会（かみくさかべとらのかい）会員　１１人と下日下部集落の有志５～６人が、約１０年前から毎年ライトアップに取り組んでいる。

【 現状・課題 】
・構成員が６０歳代以上のみ、高齢化しておりいつまで活動できるかわからない。２か月に１回程度、懇親を深めているが、地元の若者は飲酒を好まない。
・ライトアップのための発電機の調達、燃料代が負担になっており、資金が不足している。現在は集落の予算から捻出している。

【 ビューポイントの整備・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

中国電力(株)竹市発電所
安井オートサービス
安井宿
安部地区総合運動公園
桜並木（安部地区）
29
安井宿公民館
482
若桜鉄道
下日下部広場
アコヤ安部教室
尾崎商店
OZ GARDEN
(オズガーデン)
八頭郵便局
482
アジア運輸
安部
八東川
153

新因幡ライン景観形成行動計画（若桜町・八頭町エリア）策定委員会

メンバー	若桜町（にぎわい創出課）
	八頭町（企画課地方創生室、産業観光課商工観光室、建設課）
	鳥取県（生活環境部　住まいまちづくり課） （地域づくり推進部　東部地域振興事務所） （県土整備部 八頭県土整備事務所）
オブザーバー	国土交通省（鳥取河川国道事務所）
	若桜鉄道株式会社
	R29 活性化委員会
アドバイザー	一般社団法人まちの魅力づくり研究室　理事　堀　繁　（東京大学名誉教授）
	鳥取県景観アドバイザー　ﾃﾞｻﾞｲﾅｰ　宮川　淳子　（鳥取県屋外広告物審議会長）